

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

家庭 (共通)

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 3～17)

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 「家庭総合」 単元 生涯を見通す

本事例は、指導項目「内容A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の小項目「(1) 生涯の生活設計」(全3時間)として、指導と評価の計画から総括までについて示している。

本事例は、家庭総合の授業の導入として行うものであるとともに、高校に入学して間もない時期に行うことを想定している。授業内容の理解を深めることはもちろんのこと、今後の高校生活に対して展望を抱いたり、個人のICT機器の使用技術を把握するなど、一人一人に気を配って授業を行う必要があるため、授業時間中に評価をする場面をできるだけ減らし、記録に残して評価をできるように工夫した。目標を持って3年間過ごすため、また生徒同士の他者理解を深めることで、多様な価値観に気づかせることも授業の目的である。3時間目は家庭総合の授業の最後に行い、そこでは振り返りから学びのまとめとしてもつなげていくこととしている。

(P. 18～27)

事例2 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 「家庭総合」 単元 子供と共に育つ

本事例は、指導項目「内容A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の小項目「(3) 子供との関わりと保育・福祉」(全18時間)として、指導と評価の計画から総括までについて示している。

本事例では、生徒同士の意見交換やグループでの活動を通して、多様な価値観に触れさせるとともに、社会の一員としての視点から、子供や子供を取り巻く環境について考えさせることを目指している。現代は、少子化や家族形態の変化などの要因により、子供と接する機会が少ない生徒が多いため、幼稚園や保育所等を訪問して子供との触れ合いや交流を行ったり、子育て中の親や子供を学校に招いたりして、親子の観察を行うなど、実践的・体験的な学習活動を取り入れ、生徒の子供や保育に関する考え方や見方が深まるようにサポートしていく。

(P. 28～34)

事例3 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 「家庭総合」 単元 超高齢社会を共に生きる

本事例は、指導項目「内容A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の小項目「(4) 高齢者との関わりと福祉」(全12時間)として、指導と評価の計画から総括までについて示している。

本事例は、単元のまとめとして具体的な事例(課題)を設定し、習得した「知識及び技能」を活用しながら、課題の発見・解決に向けて協同学習を行うものである。ICTを適切かつ効果的に活用することで、生徒の活動をサポートすることもできる。また、指導項目「内容A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の小項目「(5) 共生社会と福祉」との関連を図りながら、自助、共助及び公助の考え方ははじめ、互助に対する考え方にも触れ、家族・地域・社会と、それぞれの役割について考察できるようにする。

(P. 35～48)

事例4 キーワード 発表の工夫から互いに学び合う

科目 「家庭総合」 単元 食生活をつくる

本事例は、指導項目「内容B 衣食住の生活の科学と文化」と、「C (3) 持続可能な消費生活・環境」との関連を図った項目であり、「(7) これからの食生活」(全3時間)として、指導と評価の計画から総括までについて説明している。

本事例は、持続可能な社会を見通して、自立した生活を営むために必要な、生活における消費生活及び環境との関わりに等に関する理解を深めるために、衣食住等の内容と相互に関連付けながら、環境に配慮して持続可能な社会を目指し、食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解を深めていく。日本の食生活を取り巻く環境が変化している現状を、調べ学習や、自他の発表から情報をまとめることで、資源やエネルギー、食の安全と衛生について理解が深められるよう工夫した。また、既習事項を応用した実践により、非常時に配慮した食品の購入、調理、保存などの知識と技能を身に付けることができるようにする。

(P. 49～57)

事例5 キーワード 持続可能な衣生活を目指して～私たちの衣生活と世界のつながりを考えよう

科目 「家庭総合」 単元 衣生活をつくる

本事例は、指導項目「内容B 衣食住の生活の科学と文化」と「C (3) 持続可能な消費生活・環境」の関連を図った項目であり、「(6) これからの衣生活」(全2時間)として、指導と評価の計画から総括までについて説明している。

本事例は、持続可能な社会を見通して、自立した生活を営むために必要な、生活における消費生活及び環境との関わりに等に関する理解を深めるために、衣食住等の内容と相互に関連付けながら、環境に配慮して持続可能な社会を目指し、衣生活を取り巻く課題について、科学技術の発展により変化する被服、繊維産業のグローバル化、資源・エネルギー問題や環境保全に配慮した再利用や適正な廃棄の方法などについて具体的に取り上げ、衣生活と被服に関する現状を資料や関連動画を用いながら学習を進める。また、衣生活におけるユニバーサルデザインについて触れ、誰もが健康、快適、安全、持続可能な社会の構築などの視点から、よりよい衣生活の構造について、ダイヤモンドランキングを用いて学習前後での思考の広がりから考え、消費行動につながる具体的な取組として工夫することができるようにする。

(P. 58～72)

事例6 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

科目 「家庭総合」 単元 持続可能な生活を営む

本事例は、指導項目「C 持続可能な消費生活・環境」の小項目「(3) 持続可能なライフスタイルと環境」(全3時間)として、指導と評価の計画から総括までについて示している。

本事例では、教科書を用いての基礎的な理解をはじめ、ゲストスピーカーの講話やグループでの話し合い活動を通して、自己の消費行動を見直し、エシカル消費を実践できるようになることを目指している。また、自己の行動変容を促すだけでなく、地域社会や学校生活においても、エシカル消費の視点で生活を見直し、実践できるようになることを目指す。本授業後は、この学びを生かし、学校家庭クラブ活動としてエシカル消費の実践を校内に呼びかけるリーダーとしての活躍にも期待したい。

家庭科 「家庭総合」事例1

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

生涯を見通す

1 人生を展望する

2 目標を持って生きる

〔指導項目〕

内容A「人の一生と家族・家庭及び福祉」

(1) 生涯の生活設計

1 単元の目標

(1) 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めること。

生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理が適切にできること。

(2) 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計を工夫すること。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画、貢献しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとする事。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることについて理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について深めている。 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などなどの生活資源について理解し、情報の収集・整理が適切にできている。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計を工夫することができている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、地域社会に参画、貢献しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

(1) 自分を知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

(2) 自己の生活設計をする・・・・・・・・・・・・ 1時間

(3) 目標の評価と再設定をする・・・・・・・・・・ 1時間（家庭総合の最後の授業で行う）

[illegible]

	・活動を振り返り、家庭総合の学習に対して１年間の見通しを立てる。	知		○人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることについて理解している。 ○生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解している。 学習プリント②（定期考査）
	目標の評価と再設定をする。 【ねらい】１年間の学習の総括を行い、自己の目標に対する評価を行うとともに、今後の目標についても調整を行い、次年度以降の生活につなげる。			
３	・年度当初の自分の短期目標について自己評価を行う。 ・自立度チェックに再度取り組み、１年間（または２年間）の学習の成果を確認する。 ・ジョハリの窓の自己・他己分析を通して、今の自分の長所・短所を再確認する。（ICT） ・短期目標，長期目標を再設定し直し，次年度以降の生活につなげる。 ・家庭科の学習成果や自己の成長を感じられるようにする。	思 態	○	○生涯を見通した自己の生活についての課題解決について，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 学習プリント③ ○グループで情報を共有し，よりよい人間関係の構築に向けて，主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫，創造し，実践しようとしている。 行動観察 ・自己評価だけでなく，他己評価も行うことによって自分をよりよく知り，今後の進路活動等にも生かす。 ・周囲とお互いの長所短所を評価し合い，成長につながる。 ・目標や生活設計はその都度見直しが必要であることに気付かせる。

4 観点別評価の進め方

(1) 知識・技能

教師が座学による授業を行い、ワークシートに記入させる場面と定期考査において、「知識・技能」の評価を行う。ワークシートの評価は、教師が正しく記入されているかを確認することで行う。また、定期考査においては、基礎的な知識の習得が確実に行われているかを解答の状況から確認する。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	青年期に身に付けたいこと、解決 しなければならない課題につい ておおむね理解しており、学習プ リントに記入ができる。 自立した生活を営むために必要 な情報の収集・整理について理解 している。	青年期に身に付けたいこと、解決 しなければならない課題につい て十分に理解しており、学習プ リントに正確に記入ができる。 自立した生活を営むために必要 な情報の収集・整理について十分 理解している。	教科書の内容を確認させ、青年期 に身に付けたいこと、解決しな ければならない課題について、理解 できるように支援する。プリント の記入に当たっては、指し示すな どして支援する。
学習プリント②	自己のライフプランについて考 え、学習プリントに記入ができ る。 高校在学中の目標や30歳まで の目標を考え、学習プリントに記 入ができる。	自己のライフプランについて深 く考え、学習プリントに具体的に 記入ができる。 高校在学中の目標や30歳まで の目標を深く考え、具体的に学習 プリントに記入ができる。	自分の将来に考えが及ばない生 徒に対しては、選択肢を与えるな どヒントを与えるようにする。ま た、周囲の生徒の記入の様子か ら、自己の将来のヒントをもら うようにきっかけを与えて支援す る。

(2) 思考・判断・表現

本事例では、自己分析や他者理解などの活動を通して、自己の生涯設計や高校生活における目標、多種多様な考え方などについて自ら具体的に考え、表現する場面が多く、またその考えや表現を評価していくために、思考が深まらない生徒には質問を行い、具体的に考えられるよう取組段階での支援が必要である。またグループ活動においては、入学初期を想定していることもあるため、きめ細やかな配慮を行い、スムーズに活動に入れるような支援が必要であり、評価のためにもグループごとの対話に差が出ないようにする必要がある。

	「おおむね満足できる」状況（B）	「十分満足できる」状況（A）と判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	自分自身について客観的に分析することで、問題を見出し、課題を設定することができる。 自立度の取組から自己の問題を見だし、課題を設定することができる。行動が環境に及ぼす影響について考えることができる。	自分自身について客観的に分析することで、問題を見出し、課題を具体的に設定することができる。 自立度の取り組みから自己の問題を見出し、課題を具体的に設定することができる。行動が環境に及ぼす影響について深く考えることができる。	自己分析ツールの結果から、いくつかの質問を交えながら、思考を促すとともに、他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
学習プリント②	ライフスタイルと将来の家庭生活、及び職業生活について自己の課題を設定し、また生活設計について問題を見出して課題を設定し、解決策について考えることができる。 将来を見通し、高校3年間の目標を立て、達成のための手立てを考えることができる。	ライフスタイルと将来の家庭生活、及び職業生活について自己の課題を設定し、また生活設計について問題を見出して課題を具体的に設定し、解決策について深く考えることができる。 将来を幅広く見通し、高校3年間の目標を立て、達成のための手立てを具体的に考えることができる。	将来の道筋を選択の中から選ぶように促し、自己の進む道をイメージするように支援する。また他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。 将来の目標や選ぶ道筋は、いつでも変更可能なことにも触れるようにする。
学習プリント③	生涯を見通した自己の生活について、初期の計画を見直し、新たな目標設定をすることができる。 課題解決に向けて、これまでの学習内容を総合して考えることができ、内容を学習プリントに表記することができる。	生涯を見通した自己の生活について、初期の計画を見直し、新たな目標を具体的に設定することができる。 課題解決に向けて、これまでの学習内容を総合して深く考えることができ、内容を学習プリントに分かりやすく表記することができる。	初期設定が記入できていなかった生徒に対しては、新たな視点で自己の将来の目標設定をするように促す。 新たな目標設定が難しい生徒に対しては、他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。 将来の目標や選ぶ道筋は、いつでも変更可能なことにも触れるようにする。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

本時では、ICTを活用した自己分析、個人で学習プリントに考えをまとめる作業、グループでの話し合いや発表といった学習活動を取り入れている。評価については、話し合いやその他の活動に主体的に取り組んでいるか、またグループ内の発表に意欲的に取り組み、内容が充実しているかを教師による観察やワークシートの記入状況によって行う。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	自己分析の内容や自立度について、もれなく学習プリントに記入することができる。	自己分析の内容や自立度について思考を深め、学習プリントに自分の考えを具体的に記入することができる。	自己分析や自立度チェックに取り組めない生徒については、方法について細かく確認することで記入を促す。 考えが深められない生徒については、いくつかの質問を交えながら、思考を促すとともに、他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
行動観察	グループ内で自分の考えを発表し、情報を共有し合うことで、課題解決に取り組むことができる。	グループ内で自分の考えを発表することができ、他者の意見にも耳を傾け、情報を共有し合うとともに、課題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。	発表が難しい生徒については、口頭以外の発表の方法も可能であると促し、何らかの方法で考えを共有できるように支援する。
学習プリント②	自己の生涯設計や高校生活における目標について、学習プリントに記入することができる。	自己の生涯設計や高校生活における目標について考えを深め、具体的に学習プリントに記入することができる。	考えが深められない生徒については、いくつかの質問を交えながら、思考を促すとともに、他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
行動観察	グループでの発表活動に主体的に参加し、また発表を通して多様な価値観に気付くとともに、自己決定の大切さについて考えることができる。	グループでの発表活動に積極的に参加することで、発表を活性化させ、また発表を通して多様な価値観に気付くとともに、自己決定の大切さについてより深く考えることができる。	発表が難しい生徒については、口頭以外の発表の方法も可能であると促し、何らかの方法で考えを共有できるように支援する。
行動観察	新たな生活設計と目標設定に前向きに取り組むことができる。 グループ内での意見交換に積極的に取り組むことができる。	新たな生活設計と目標設定に主体的に取り組む、具体的に考えることができる。 グループでの発表活動に積極的に参加することで発表を活性化させることができる。	考えが深められない生徒については、いくつかの質問を交えながら、思考を促すとともに、他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。 発表が難しい生徒については、自分にできる方法で発表するように促し、考えを共有できるように支援する。

5 観点別評価の総括

評価は単元ごとに行う。評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて、合計や平均値に換算することで総括していく。A=3, B=2, C=1とし、各観点の評価を数値化すると、「知識・技能」の平均点は2.5, 「思考・判断・表現」の平均値は2.7, 「主体的に学習に取り組む態度」の平均値は2.4となる。Bと判断する範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ と設定すると、「知識・技能」ではA, 「思考・判断・表現」ではA, 「主体的に学習に取り組む態度」ではBの評価に総括できる。

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	ワークシート	定期考査	ワークシート	ワークシート	行動観察
1時間目	B(2)	B(2)	B(2)	A(3)	B(2)
2時間目	A(3)	A(3)	A(3)	B(2)	A(3)
3時間目			A(3)		B(2)
総括	A(2.5)		A(2.7)	B(2.4)	

ワークシートの具体例

別紙のとおり

番号

氏名

学習プリント①

学習プリント①

自分を知る・友達を知る

課題Ⅰ

青年期の課題について考えよう

青年期とは→

	ライフイベント	この時期の発達課題	
		自分の考えを書きましょう	友達の考えをいたしましょう
青年期 (12歳～20歳前半頃)	中学校入学 高校入試 高校入学 大学入試 就職試験 選挙権獲得 飲酒・喫煙が可能になる アルバイト 給料をもらう		

課題Ⅱ

今

の自分を見つめてみよう。

QRコード

自分の長所(強み)と短所(弱み)を客観的に見てみよう。

右の QR コードを読み込んで、自己分析をやってみましょう。この結果が自分を表す全てではありませんが、客観的に自分を見つめる1つの方法です。

アプリが分析した私の長所

私の思う私の長所

アプリが分析した私の短所

私の思う私の短所

自立の木をつくりましょう(※教科書17ページと同様の活動です)

Google フォームのアンケートで、皆さんの自立度をチェックしていきます。

右の QR コードを読み込んで、アンケートページに入ってください。

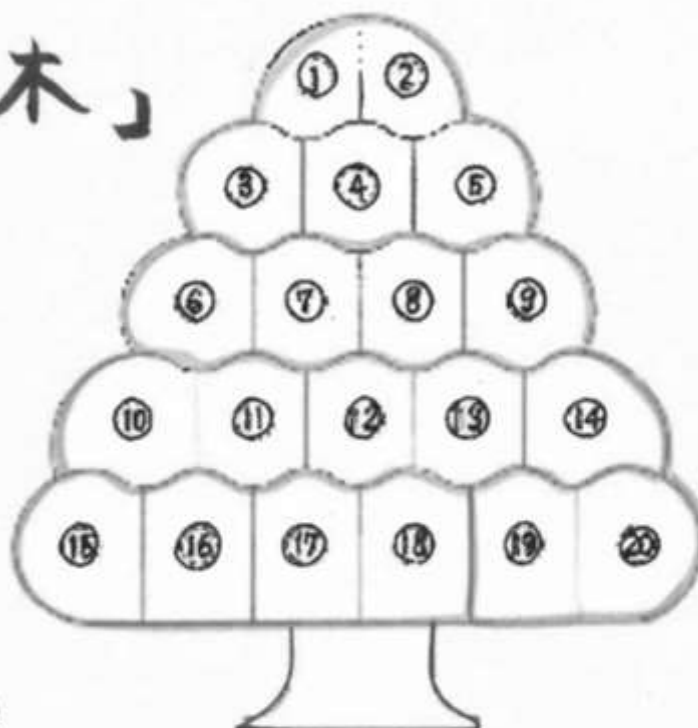
今の自分について知るために行うものなので、自分の現状で正直にアンケートに答えましょう。アンケートは集計して、クラス全体の自立度(4月〇〇日現在)を知る手立てとしたいと思います。

QR コード

また、YES と答えた項目番号と対応する下の「自立の木」の番号を塗りつぶしましょう。

現時点でどのくらい「自立の木」に色がつきましたか??

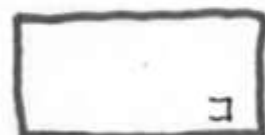
「自立の木」



自立できているのは
どのあたりかな...?

何コレ塗りつぶせ
ましたか?

KUM



生活的自立(①～⑤)→衣食住に関わる身の回りのことや家事、健康管理などを自分で行えること

精神的自立(⑥～⑨)→さまざまな問題に対して自分で決定し、責任を持って行動できること。

社会的自立(⑩～⑭)→人との関わりにおいて合意を形成したり、人間関係を調整したりすることができること。

経済的自立(⑮～⑰)→収入を得て、それを管理して生活できること。

性的自立(⑱, ⑳)→自分の性だけでなく他者の性を尊重して、責任を持って行動できること。

「自立の木」の色づきを見てどうですか??また、この時間の活動全体を通しての感想を書きましょう。

番号

氏名

学習プリント②

学習プリント②

自己の生活設計をしよう

課題Ⅰ

My life plan の作成。
マイ ライフ プラン

今をスタート地点として、これからの自分の未来予想図(マイライフプラン)を書いてみましょう。

未来予想図・自立の木・自分の長所、短所から…

高校卒業までに身につけておかなければならないと思うこと。

高校卒業までの目標

30 歳までに身につけておかなければならないと思うこと。

30 歳までの目標

いくつかの選択肢や可能性の中から、何か 1 つを選ぶこと→

みなさんがこれから生きていく未来は…

2022 年から成年年齢が()歳から()歳に引き下げられる。

成年年齢に達すると、社会的な責任が大きくなるので、それまでに身につけておくべきことや、どんな責任が伴うことになるのか、家庭総合の授業でしっかりと学んでいきましょう！！

HOT なワード

SDGs

とは?? =(

)

QRコード

My life plan を作る!!

24

747

707

高校卒業

進学

就職

その他

就職 する しない

5年続けて働く?
YES NO

就職 する しない

ふよと
30歳
平均
初婚
年齢

結婚
する
しない

子ども
いる生活
いない生活

その理由

仕事
続ける
やめる

その理由

老後の生活

80歳になった自分は?

がんめ
還暦
60歳

平均寿命は
おとまだ
長いはず...

つづく

住む家は?
マイホーム購入
(一軒家)

マンション購入

今住んでいる家にそ
のまま住む

その他

30歳くらい~60歳くらい
どんな生活をしていきたいか?

この期間に自分や家族に起こるかもしれないピンチ!

2050年の地球は? → 温室効果ガスの増加による地球温暖化に
より平均気温が2℃上昇。日本で鮭がとれなくなる。

2080年の地球は? → 平均気温が4℃ほど上昇する。
日本の海水面が30cm上昇する。桜が2月に開花する。

番号	氏名
----	----

課題Ⅰ 自分の成長を確認してみよう。4月の授業と同じ活動をもう一度やってみよう！

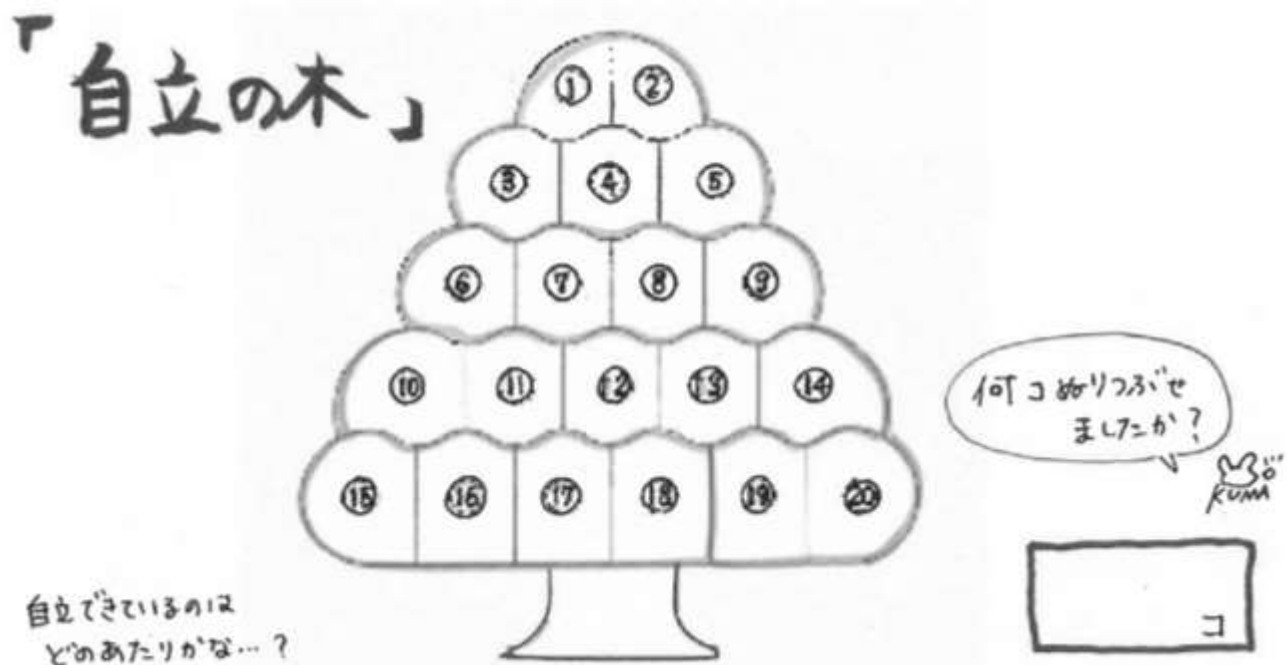
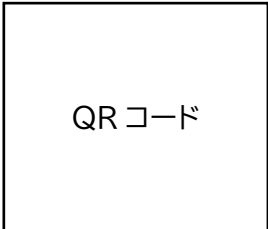
自立の木をつくりましょう（※教科書17ページと同様の活動です）

Google フォームのアンケートで、皆さんの自立度をチェックしていきます。

右の QR コードを読み込んで、アンケートページに入ってください。

今の自分について知るために行うものなので、自分の現状で正直にアンケートに答えましょう。アンケートは集計して、クラス全体の自立度（2月〇〇日現在）を知る手立てとしたいと思います。（4月の結果と比較もするよ！！この1年でどのくらい成長できたかな？）

また、YES と答えた項目番号と対応する下の「自立の木」の番号を塗りつぶしましょう。
現時点でどのくらい「自立の木」に色がつきましたか？



生活的自立(①～⑤)→衣食住に関わる身の回りのことや家事、健康管理などを自分で行えること
 精神的自立(⑥～⑨)→さまざまな問題に対して自分で決定し、責任を持って行動できること。
 社会的自立(⑩～⑭)→人との関わりにおいて合意を形成したり、人間関係を調整したりすることができること。
 経済的自立(⑮～⑰)→収入を得て、それを管理して生活できること。
 性的自立(⑱, ⑳)→自分の性だけでなく他者の性を尊重して、責任を持って行動できること。

4月の結果

個



今回の結果

個

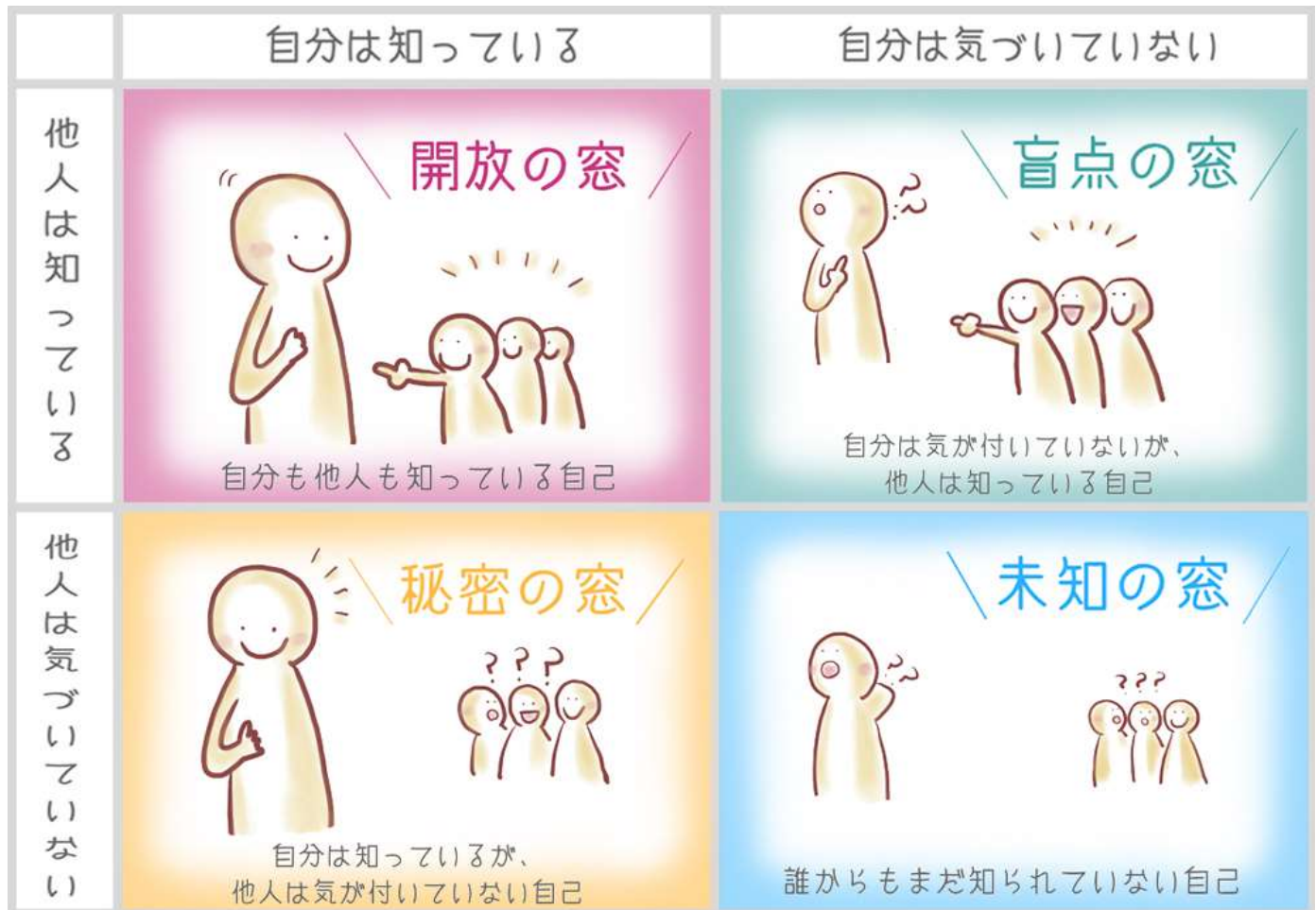
1年間の学習で、どのように成長できましたか？

また、これからもっと！！成長しなければいけない部分はこういったところですか？

課題Ⅱ ジョハリの窓で自己理解を深めよう。

ジョハリの窓とは

自分が知っている「自分の特徴」、他人が知っている「自分の特徴」の一致・不一致を『窓のように見える4つの枠』に分類することで自己理解のズレに気づく、心理学ではよく使われているフレームワーク(手法)です。また、そのズレを一致させていくことで他人とのコミュニケーションを円滑にできると考えられています。



©株式会社シャイン All Rights Reserved. 適性検査「ポテクト」 <https://potect-a.com/>

<ジョハリの窓 Web アプリのやり方>

1. 実施人数と名前の入力
2. 自分と相手の資質を順番に選択
3. 結果の確認

QRコード

静岡友子さんのジョハリの窓

開放の窓 自分と相手 共に成長できる 信頼関係 共通の目標	盲点の窓 自分と相手 相手が気づいていない 自分自身の長所	秘密の窓 自分と相手 自分が知っている 相手が気づいていない	未知の窓 自分と相手 誰からもまだ知られていない
--	---	--	---------------------------------------

さあ、QRコードを読み込んで、グループごとにやってみよう！！

ジョハリの窓をやってみての感想や、新たに知った自分の長所などから自分の成長した点やこれからの自分の課題などを書きましょう。

自己の生活設計をしよう

課題Ⅲ

課題Ⅰ・課題Ⅱを通して、新たな目標設定をしよう。

高校卒業までに身につけておかなければならないと思うこと。

高校卒業までの目標

30歳までに身につけておかなければならないと思うこと。

30歳までの目標

時間がある人は、もう一度今の自分の「My life plan」を作成してみましょう。できれば、4月に書いたものを見返さずに取り組んでね。(過去にはとらわれずに新たな自分の plan を考えてみて！！)

My life plan を作ろう!!

マイ ライフ プラン

高校卒業

進学

就職

その他

就職 する しない

5年続けて働く?
YES NO

就職 する しない

あよそ 30歳
平均
初婚
年齢

結婚
する
しない

子ども
いる生活
いない生活

その理由

仕事
続ける
やめる

その理由

住む家は?
マイホーム購入
(一軒家)

マンション購入

今住んでる家に
そのまま住む

その他

30歳くらい~60歳くらい
どんな生活をしていきたいか?

この期間に自分や家族に起こるかもしれないピンチ!

2050年の地球は? → 温室効果ガスの増加による地球温暖化により平均気温が2℃上昇。日本で鮭がとれなくなる。

60歳 還暦

老後の生活

80歳になった自分は?

平均寿命は
まだ
長いので第一。

つづく

2080年の地球は? → 平均気温が4℃ほど上昇する。日本の海面が30cm上昇する。桜が2月に開花する。

ジョハリの窓の結果を貼っておきましょう。今後の進路活動にも役立つよ♪

(〇〇年〇〇月〇〇日 実施)

家庭科「家庭総合」事例2

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

子どもと共に育つ

〔指導項目〕

内容A「人の一生と家族・家庭及び福祉」

(3) 子供との関わりと保育・福祉

1 単元の目標

- (1) 乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けること。子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めること。
- (2) 子供を生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子供との適切な関わり方を工夫すること。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めている。	・子供を生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子供との適切な関わり方を工夫している。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（18時間）

(1) 命を育む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2時間	事例
(2) 子どもの育つ力を知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4時間	
(3) 子どもと関わる・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6時間	
(4) 子どもとの触れ合いから学ぶ・・・・・・・・・・	3時間	
(5) これからの保育環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3時間	

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
1	【ねらい】子供の成長の節目に行われてきた儀礼や、命の誕生・妊娠中の健康について学ぶことを通して、妊娠・出産はパートナーや周囲の支援が必要不可欠であることに気付く。また、青年期の責任について学び、子供を育てることについての考えを深める。			
	(1) 子供を育てることについて、現時点の自分の考えを明らかにする。また、子供には周囲の人々の思いや願いが込められていることを知る。 ・将来、子供を育てることについて、現在の考えをまとめ、意見を共有する。(Forms等の活用) ・子供の成長の節目に行われてきた儀礼やその背景について学ぶ。	知	○	・子供の成長に関する儀礼について理解している。 学習プリント①（定期考査）
	(2) 命の誕生や妊娠中の健康について学ぶ。 ・生命誕生の動画を視聴し、胎児の器官形成の時期や母体の変化、喫煙等が及ぼす影響について学ぶ。 ・妊娠中に控えたいことや気をつけたいこと、父親（パートナー）ができるサポートについて考え、グループで共有、発表活動をする。	知	○	・胎児の発育と母体の変化、健康管理について理解している。 学習プリント①（定期考査）
	(3) 青年期の責任について学び、子供を育てることについての考えを深める。 ・グループで共有、発表活動をする。	思 態	○ ○	・妊娠期間における父親（パートナー）の役割について考えることができる。 学習プリント① ・命に対する責任をもち、子供を育てることについて考えを深めている。 学習プリント①
2	【ねらい】妊婦の疑似体験を通して、社会の一員としての視点から子供の健やかな発達を支えるためにできることを考える。			
	(1) 妊婦の疑似体験を行い、周囲ができるサポートについて考える。 ・グループで妊婦疑似体験ジャケットを使用し、日常動作を行う。学習プリントをまとめ、感想を話し合う。	態	○	・グループで協力し、主体的に取り組もうとしている。 学習プリント② ・ 行動観察
	(2) 妊婦（マタニティマークをつけている人）を見かけたら、どのような配慮ができるか考える。 ・様々な場面（妊婦が実際に遭遇した場面やトラブル事例含む）ごとに、自分ができることを考え、発表活動をする。	思	○	・子どもの健やかな発達を支えるために、社会の一員としてできることを考えることができる。 学習プリント② ・ 発表

3 ～ 6	子どもの育つ力を知る 【ねらい】子供の発達に応じて適切に関われるようになるために、子供が生まれつきもっている能力や心身の発達について理解する。		
	(1) 子供が生まれつきもっている能力、身体の発達について学ぶ。 ・子供には生まれつきもっている能力があることを知る。 ・乳幼児（保育人形・子供の頃の自分）と高校生の自分との身体比較をし、子供の身体の発達の特徴について知る。	知	・乳幼児期は、人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、発達には一定の方向性や順序性があることを理解している。 定期考査
	(2) 子供の心の発達について学び、親の働きかけの重要性について考える。 ・子供の言語、認知、情緒の発達の概要を学ぶ。	知	○ ・子供の言語、認知、情緒の発達の概要を理解している。 学習プリント③（定期考査）
	・スマホ育児についてKJ法を用い、グループディスカッションを通して、親の働きかけの重要性について考察する。	思	○ ・適切な養護の在り方について考えることができる。 学習プリント③ 観察
	・愛着形成の重要性について知る。	知	○ ・愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解している。 学習プリント④
	・さまざまな場面に応じた保育者の言葉がけを考え、グループでロールプレイングに取り組む。	思	○ ・さまざまな場面に応じた適切な言葉がけを考えることができる。 学習プリント④
	(3) 子供と遊びの関係、遊びの重要性について学ぶ。 ・自分の子供の頃を思い出しながら、子供の遊びとその重要性について学ぶ。	態	○ ・学んだことを生かし、主体的にロールプレイングに取り組むことができる。 観察
	・近年の子供の遊びにおける課題についてグループで考え、その解決策を話し合い、発表活動をする。	思	○ ・子供の遊びについて、自分の子供の頃を思い出しながら、興味・関心をもち、学習に取り組もうとしている。 学習プリント⑤
		思	○ ・近年の子どもの遊びの変化と課題をあげ、解決策を考えることができる。 学習プリント⑤ 定期考査

7 ～ 1 2	子どもと関わる 【ねらい】 子供が健康・快適・安全に育つ環境を育てられるようになるために、子供の生活習慣や衣食住について理解する。		
	(1) 生活習慣の形成と親の役割について考える。	知	・生活習慣の形成の概要を理解している。 定期考査
	・生活習慣の形成の概要について知る。	思	○
	・基本的生活習慣や社会的生活習慣を、身に付けさせるための場面に応じた声かけ・方法をグループで考え、発表活動をする。	知	○
	(2) 子供の食生活、衣生活、健康、安全について学び、子供の発達に応じて適切に関わる方法を考える。	知	○
	・子供の食生活の概要について知る。	思	○
	・市販の離乳食にはどのようなものがあるかをグループで調べるとともに、手作りの離乳食や高校生の食事と比較し、違いを考える。	知	○
	・子供と大人の服とを比較し、異なる点から子供に適した衣服についてグループで考察する。	思	○
	・子供の死亡事故の原因について0歳児と1～4歳児を比較し、乳幼児の特性を考えるとともに、事故予防のための室内外環境整備について、グループごとに考え、発表する。	知	○
	(3) 乳幼児の世話について考え、子供と適切に関わる技能を身に付ける。	知	○
	・グループごとに保育人形を使用し、溢乳の対処、抱き方、寝かせ方、着替えの援助について実習する。	態	○

・生活習慣の形成の概要を理解している。**定期考査**

・生活習慣を形成するために、場面に応じて親や家族が子供とどのように関わったらよいか考え、親や家族が果たす役割について適切に判断、表現している。**学習プリント⑥** **発表**

・子供の食生活について理解している。**学習プリント⑦**

・市販の離乳食について調べ、手作りの離乳食や自分たちの食事との違いをまとめることができる。**学習プリント⑦**

・子供の衣生活について理解している。**定期考査**

・子供の特性から、事故予防のための室内外環境整備について、適切に判断、表現している。**学習プリント⑧**・**発表**

・子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。

小テスト・**学習プリント⑨**

・意欲的に、子供と適切に関わる技能を身に付けようとしている。**学習プリント⑨**・**観察**

1 3 ～ 1 5	子どもと関わる 【ねらい】子供との触れ合いや、親や保育者と子供の関わり方の観察など、さまざまな体験を通し、子供や子育てに対する理解を深める。					
	(1) 地域の保育施設での触れ合い体験学習を通して、子育てに対する理解を深める。 ・乳幼児との関わり方について学び、おもちゃの製作活動をする。	知	○	・子供に適したおもちゃを製作することができる。 おもちゃ・学習プリント⑩		
	・地域の保育施設を訪問し、安全やマナーに注意し、乳幼児と触れ合う。	態	○	・安全やマナーに注意し、子供と適切に関わりようを取り組もうとしている。観察		
	・体験学習後にレポートをまとめる。	思	○	・準備、実施、考察・反省まで、一連の学習内容をまとめることができる。レポート		
1 6 ～ 1 8	これからの保育環境 【ねらい】社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。また、子供が健やかに育つ社会を実現するにはどうすればよいか、考える。					
	(1) 現代の子供や、子育て家庭を取り巻く社会環境の課題について、理解する。 ・ワンオペ育児の事例から、夫婦でできる育児の工夫、企業や地域が果たす役割について、グループで考え、発表活動をする。	思	○	・現在の子育て環境の課題について理解し、企業や地域が果たす役割の重要性について考察できている。 学習プリント⑪		
	・集団保育の種類や特徴、役割について調べ、学習プリントにまとめる。	知		・集団保育の特徴、役割について理解している。 学習プリント⑪ 定期考査		
	(2) 世界の子供たちの状況・課題を知るとともに、子供の権利について知る。 ・親や社会は、子供の権利を守る責任があることを知る。 ・グループで児童虐待防止の取り組みを調べ、自分たちにできることを考え、発表活動をする。	知	○	・子供の福祉について理解している。学習プリント⑫		
		思	○	・児童虐待が起きる子供を取り巻く環境や背景、防ぐための取組を調べ、自分ができることを適切にまとめている。 学習プリント⑫		

	(3) 地域の保育施設や取り組みを調べ、子供が健やかに育つ社会について考える。 ・ 地域の子育て施設やその取り組み、課題、課題解決策をグループで調べ、発表する。	思	○	・ 地域の子育て環境に関する課題に着目し、解決策を構想することができる。 学習プリント⑬
		態	○	・ 単元を振り返り、子供を取り巻く環境において自分自身にできることを実践しようとしている。 レポート

4 観点別評価の進め方（「命を育む」2時間分）

本事例では、生徒同士の意見交換やグループでの活動を通して、多様な価値観に触れさせるとともに、社会の一員としての視点から、子供や子供を取り巻く環境について考えさせることを目指している。現代は、少子化や家族形態の変化などの要因により、子供と接する機会が少ない生徒が多いため、幼稚園や保育所等を訪問して子供との触れ合いや交流を行ったり、子育て中の親や子供を学校に招くなどして、親子の観察を行うなど、実践的・体験的な学習活動を取り入れ、生徒の子供や保育に関する考え方や見方が深まるようにサポートしていく。グループでの活動においては、固定されたグループ活動を続けることにより評価に偏りが出ないように留意する。

(1) 知識・技能

主に学習プリントの記入内容と定期考査で評価を行う。学習プリントの評価は、内容が正しく記入されているかを確認する。また、定期考査においては基礎的な知識の習得が確実に行われているかを解答の状況から確認する。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント ①	子供の成長に関する儀礼について、おおむね理解しており、学習プリントに記入ができる。 胎児の発育と母体の変化、健康管理について、内容をおおむね理解しており、学習プリントに記入ができる。	子供の成長に関する儀礼とその背景について十分に理解しており、学習プリントに正確に記入ができる。 胎児の発育と母体の変化、健康管理について、内容を十分理解しており、学習プリントに記入できる。	分かりにくい言葉や、理解ができなかった部分について聞き取り、理解できるよう支援する。また、プリントの記入にあたっては、指で指し示すなどして支援する。

(2) 思考・判断・表現

子供と接する機会の少ない生徒も多いと予想されることから、生徒が場面を具体的にイメージし、考えられるよう、授業準備をする。2時間目には、マタニティマークを紹介し、それをつけていることで起きている実際の事例にも触れさせ、学習プリント②と発表で、自分ができることを考え、表現できているかを評価する。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント ①	妊娠期間における父親（パートナー）の役割について考えることができる。	妊娠期間における父親（パートナー）の役割について、理由や時期を含め、具体的に考え、まとめることができる。	他者の意見やまとめから、参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
学習プリント ② 発表	妊婦やマタニティマークをつけている人に対し、自分ができるサポートについて考え、学習プリントにまとめることができる。	妊婦やマタニティマークをつけている人に対し、自分ができるサポートについて考え、理由とともに学習プリントにまとめ、発表することができる。	妊婦の立場や気持ちを想像させ、再度考えさせる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

話し合いや実習などの活動に主体的に取り組む、その内容が充実しているかの観察や学習プリントの記入状況によって評価を行う。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント ①	命に対する責任や、子供を育てることについての考えを、学習プリントに記入することができる。	命に対する責任や、子供を育てることについての考えを深め、具体的に学習プリントに記入することができる。	考えが深められない生徒については、具体的に質問をするなどして思考を促す。
学習プリント ② 行動観察	グループでおおむね協力し、妊婦疑似体験に取り組んでいる。	グループで協力し、主体的に妊婦疑似体験に取り組むとともに、話し合い活動（感想）に積極的に参加している。	主体的に取り組むことが難しい生徒については、声がけをするなどして、活動を促す。

ワークシートの具体例

別紙のとおり

1. 命を育む

【課題】子どもの成長の節目に行われてきた儀礼や命の誕生・妊娠中の健康について学び、妊娠・出産におけるサポートの必要性について考えよう。また、青年期の責任について学び、子どもを育てることについての考えを深めよう。

(1) あなたは将来、子どもを育てたいですか？1つ選び、理由も記入しよう。

(育てたい ・ 育てたくない ・ わからない)



理由

(2) 子どもの成長を祝う儀礼について

知識・技能

おびわ 帯祝い	しちや お七夜	お宮参り	くぞ お食い初め	七五三
妊娠 5 ヶ月の「戌の日」に妊婦が岩田帯（腹帯）を巻くお祝いの儀式	生後7日目を無事に迎えたお祝いをする	赤ちゃんが無事に生誕1か月目を迎えたことを産土神に感謝して報告する	生後100日前後に赤ちゃんのお食事を家族でお祝いする儀式	7歳, 5歳, 3歳の子どもの成長を祝う日本の年中行事
儀礼の背景・・・				

(3) 胎児の発育と母胎の変化

知識・技能

	妊 娠 初 期			妊 娠 中 期			妊 娠 後 期		
妊娠 数周	8	12	15	20	24	27	32	36	39
胎児の 成長	脊髄・脳・心臓の基礎ができる。 身長4cm 体重16g	目・鼻・口・指が識別できる。	内臓がほぼ完成する。	爪がはえる。 心音が聞こえる。	頭髮がはえる。 聴覚が発達し、外音が聞こえる。	顔のパーツがはっきりしてくる。	聴覚が完成する。	生まれても胎外での生活が可能となる。	成熟児になる。
母体の 変化	月経がとまり、つわりの症状が現れる。 初期流産などが起こりやすい。 妊娠による貧血に注意が必要。			胎動を感じるようになり、下腹部の膨らみが目立つようになる。			下腹部が張り、痛みを感じるようになる。 妊婦高血圧症候群、早産に注意が必要。		
症状	・嘔吐や吐き気がする ・ににおいに敏感になる ・食事の嗜好が変わる ・眠気がする ・精神の不安定になる（マタニティブルー） ・歯周病や貧血、便秘になりやすい								

(4)胎児に悪影響を及ぼすもの

たばこ	アルコール	薬剤

(5) 妊娠中に妊婦が控えたいことや気をつけたいこと, 父親(パートナー)ができるサポート・役割について, 理由を

含め考え, グループで意見交換をしましょう。

思考・判断・表現

	妊娠中に控えたいこと, 気をつけたいこと 	父親(パートナー)ができる サポート・役割 
自 分 の 意 見		
グループ の 意 見		

(6) 授業を振り返り, 命に対する責任や子どもを育てることについて, あなたはどのように考えましたか?

主体的に学習に取り組む態度

(1)妊婦疑似体験ジャケットを着用し、妊婦の日常生活を体験し、感想を記入しましょう。また、周囲ができるサポートも考えよう。

主体的に学習に取り組む態度

No.	内 容	感 想	周囲ができるサポート
1	歩く		
2	椅子に座る・立つ		
3	床に座る・立つ		
4	段ボールを運ぶ		
5	階段を上る・降りる		
6	足の爪を切る		
7	寝る・寝返りをうつ・起き上がる		

【妊婦疑似体験の感想】

.....

.....

.....

(2)今後、あなたが妊婦やマタニティマークをつけている人を見かけた時にできるサポートを考えよう。

思考・判断・表現



様々な場面（妊婦が実際に遭遇した場面やトラブル事例含む）を紹介する

.....

.....

.....

◇まとめ

【この時間で学んだこと】	【今後、調べたいこと】
--------------	-------------

家庭科「家庭総合」事例3

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

超高齢社会を共に生きる
(4) これからの超高齢社会

〔指導項目〕

内容A「人の一生と家族・家庭及び福祉」
(4) 高齢者との関わりと福祉

1 単元の目標

- (1) 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けること。高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めること。
- (2) 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫すること。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めている。	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫している。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（12時間）

- (1) 超高齢・大衆長寿社会の到来・・・・・・・・・・2時間
- (2) 高齢者の心身の特徴・・・・・・・・・・4時間
- (3) 高齢者の自立を支える・・・・・・・・・・4時間
- (4) これからの超高齢社会・・・・・・・・・・2時間

事例（2時間のみの記載）

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
2	これからの超高齢社会 【ねらい】これからの超高齢社会の課題を理解する。自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。			
	(1) 介護が必要になった親に対し、どのような支援方法があるか（課題）をグループ1で考え、意見を挙げる。 (2) エキスパート活動を行う - 出てきた意見をクラス全体でA～Eに分類する。 - グループ1内でA～Eの担当者を決める。 - A～Eの担当ごとに集まり（グループ2とする）、エキスパート活動を行う。（エキスパート資料の準備、ICTの活用） ～グループ2～ 【担当A】子ども（自分）が介護をする 【担当B】兄弟や親戚に介護をお願いする 【担当C】介護保険サービスを利用する 【担当D】近隣の人に介護をお願いする 【担当E】その他 （保険外サービスやボランティアの利用） 担当グループごとに課題に対しての概要や問題点、課題解決に向けた調べ学習を行い、知識を深めるようにする。 (3) ジグソー活動を行う - グループ1に戻り、グループ2で調べ、まとめた内容をお互いに共有する。 【担当A】必要な介護費用、介護離職の現状など 【担当B】兄弟や親戚がいない場合、役割や費用の分担など 【担当C】自分の住むまちの地域包括支援センターの場所、申請方法など（共助） 【担当D】近隣の人との付き合い方、社会的孤立の問題など（互助） 【担当E】保険外サービス、ボランティアの実態など（公助） (4) 介護される側（親）の視点に立ち、介護される側がしてほしいことや介護される側ができること（自助）も考え、話し合う。	態 知 思	○ ○	・課題の解決に主体的に取り組み、他者の意見を取り入れるなど粘り強く取り組もうとしている。 学習プリント①・観察 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解している。 ・自助、共助及び公助の重要性について理解している。 定期考査 ・課題に対する解決策について、さまざまな情報を組み合わせながら、考察している。 学習プリント②・発表

	(5) 課題に対する解決策をまとめ、クラス全体に発表する。(クロストーク活動) ・各グループの発表を聞き、メモをとる。 (6) 個人で課題に対する解決策を振り返る。 ・地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、高校生の自分にできることを考える。	思	○	・地域社会の一員としての自覚を持ち、高校生の自分にできることを考えている。 学習プリント②
--	--	---	---	--

4 観点別評価の進め方

本事例は、単元のまとめとして具体的な課題を設定し、これまで習得した「知識及び技能」を活用しながら問題の発見・解決に向けて協同学習を行うものである。ICTを適切かつ効果的に活用することで、生徒の活動をサポートすることもできる。また、指導項目「内容A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の小項目「(5) 共生社会と福祉」との関連を図りながら、自助、共助及び公助の考え方をはじめ、互助に対する考え方にも触れ、家族・地域・社会とそれぞれの役割について考察できるようにする。

(1) 知識・技能

主に学習プリントの記入内容と定期考査で評価を行う。学習プリントの評価は、内容が正しく記入されているかを確認する。また、定期考査においては基礎的な知識の習得が確実に行われているかを解答の状況から確認する。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判 断した生徒への指導の手立て
定期考査	高齢者を取り巻く社会環境の変化や、課題及び高齢者福祉についておおむね理解している。 自助、共助及び公助の重要性について理解している。	高齢者を取り巻く社会環境の変化や、課題及び高齢者福祉について、十分に理解している。 自助、共助及び公助の重要性について、十分に理解している。	教科書の内容を再度確認させ、十分に理解できるよう支援する。

(2) 思考・判断・表現

生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計した上で指導・評価することが求められており、「知識・技能」と「思考・判断・表現」とを相互に関連させながら指導・評価を計画することが必要となる。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント ②	課題に対する解決策について、様々な情報を共有し、学習プリントにまとめ、考察している。 自分たちが考えた発表内容を振り返るとともに、高校生の自分にできることを考え、まとめることができる。	課題に対する解決策について、様々な情報を共有し、学習プリントにまとめ、理由とともに深く考察している。 自分たちが考えた発表内容を振り返るとともに、地域社会の一員としての自覚をもち、高校生の自分にできることを具体的に考え、まとめることができる。	学習プリントや他者の意見を参考に、考察するよう促す。 他者の意見を参考に、具体例を示し、考えをまとめるよう促す。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

自分の担当する支援方法（担当A～E）について、他者の意見を取り入れながら調べ活動を行おうとする態度を評価する。それぞれ取り組む課題が異なるため、頻繁に机間巡視を行い、適宜指導・助言していく必要がある。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント ①観察	自分の担当する支援方法について、他者の意見を取り入れながら、学習プリントへ記入し、調べ活動を行うことができる。	自分の担当する支援方法について、他者の意見を取り入れながら、学習プリントへ記入し、調べ活動を行うことができるとともに、問題点の解決策について考えようとしている。	自分の担当する支援方法について再度確認させるとともに、参考になる他の生徒の意見を示し、活動を促す。

ワークシートの具体例

別紙の通り

4. これからの超高齢社会

それぞれの支援方法について、問題点も含め、調べよう。

～ジグソー法を使って～①エキスパート活動

主体的に学習に取り組む態度

【担当A】 子供（自分）が介護 をする	【担当B】 兄弟や親戚に介護を お願いする	【担当C】 介護保険サービスを 利用する	【担当D】 近隣の人に介護をお 願いする	【担当E】 その他 （保険外サービスや ボランティアの利 用）
考 え て ほ し い 点				
①仕事はどうするの か？（介護離職の現 状） ②介護費用はいくら ぐらいかかるのか （費用の捻出）	①役割分担・費用は どのように決めるの か？（事例を調べる） ②兄弟や親戚がいな い場合はどうするの か？	①介護保険サービス とは何か？（復習） ②サービスを利用す る場合、どうすれば よいのか？ ③自分たちの暮らす 地域の支援包括セン ターはどこか？	①近隣の人との付き 合い方 ②社会的孤立とは？	①保険外サービスに はどんなものがある のか？ ②費用はどのくらい かかるのか？

(1)グループ1で各担当(A～E)を決める。

(2)各担当で集まり(グループ2), 支援方法や問題点を調べる。(表の考えてほしい点を含めること。)

(3)グループ1に戻り, 自分が調べたことをメンバーに伝え, 情報共有をし, 課題解決策について考える。

私は担当()

支援方法:()について, 調べる。

考えてほしい点	問題点・課題（情報源）
①仕事はどうするか？	
②介護費用はいくらぐらい かかるのか？	

【調べてわかったこと・グループ1のメンバーに伝えたいこと】

4. これからの超高齢社会

【課題】 遠方に暮らしているAさんの親に介護が必要になったとき、どのような支援の方法があるか、解決策をグループで考え、発表しよう。

〈条件〉※条件は生徒の実態に応じて考える。

- ・ Aさん（52歳）は東京都で家族とともに暮らし、フルタイムで働いている。
- ・ Aさんの親（77歳）は宮城県〇〇市で一人暮らしをしている。 etc.

(1)どのような支援の方法があるか、グループ1で話し合い、挙げてみよう。

(→学習プリント①へ)

(2)グループのメンバーから得られた情報をもとに、課題に対し、どう解決するか話し合おう。また、介護される側(親)の視点に立ち、してほしいことや、介護される側ができることは何かも考えよう。

思考·判断·表现

～ジグソー法を使って～②ジグソー活動

メンバーから得られた情報				
【担当A】 子供(自分)が 介護する	【担当B】 兄弟や親戚に介護を 願う	【担当C】 介護保険サービスを 利用する	【担当D】 近隣の人に介護を 願う	【担当E】 その他(保険外サービス やボランティアの利用)
概要と問題点	概要と問題点	概要と問題点	概要と問題点	概要と問題点

家庭科 「家庭総合」事例4
キーワード 発表の工夫から互いに学び合う

単元名

衣食住の生活の科学と文化
食生活の科学と文化

〔指導項目〕

B 衣食住の生活の科学と文化
(1) 食生活の科学と文化

1 単元の目標

- (1) 食生活を取り巻く課題，食の安全と衛生，日本と世界の食文化など，食と人との関わりについて理解すること。ライフステージの特徴や課題に着目し，栄養の特徴，食品の栄養的特質，健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに，自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。おいしさの構成要素や食品の調理上の特質，食品衛生について科学的に理解し，目的に応じた調理に必要な技能を身に付けること。
- (2) 主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事，日本の食文化の継承・創造について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けること。
- (3) 様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，食生活の科学と文化について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食生活を取り巻く課題，食の安全と衛生，日本と世界の食文化など，食と人との関わりについて理解している。 ライフステージの特徴や課題に着目し，栄養の特徴，食品の栄養的特質，健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに，自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質，食品衛生について科学的に理解し，目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事，日本の食文化の継承・創造について問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，食生活の科学と文化について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（30時間）

第6章 食生活をつくる

1	食生活の課題について考える	2時間
2	食事と栄養・食品	7時間
3	食品の選択と安全	3時間
4	生涯の健康を見通した食事計画	4時間
5	調理の基礎	9時間
6	食生活の文化と知恵	2時間
7	これからの食生活	3時間

事例

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・評価方法）
		観 点	記 録	
	7 これからの食生活			
	【ねらい】自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。			
1	（1）日本の食生活に関わる現状と課題について、情報を収集し、問題を見出して課題を設定し、考察する。 事例1 ①日本と世界の食に関わる課題について各グループに異なるキーワードを選択させ、iPad を活用してグループで調べ学習をする。 ②調べた情報についてまとめる。 ＊図1 知識構成型ジクソー法 エキスパート活動	知 態	○ ○	・日本の食に関わる現状について理解している。 学習プリント① ・与えられたテーマに沿って現状を踏まえ、課題について情報を収集しようとしている。 学習プリント① グループでの話し合い 観察
2	（2）食生活について持続可能な社会を実現するための問題や課題の解決策を構想し、「自分ごと」として実践できることを考え表現する。 事例2 前時のまとめを発表し、他のグループのキーワードについて全体で共有する。 ＊図1 知識構成型ジクソー法 ジクソー活動・クロストーク活動 （3）自分たちの身近な行動（「米を食べる」など）とSDGsがどうつながっていくか考え、学んだことを確認する。	知 態	○ ○	・日本が抱える課題や問題について理解している。 学習プリント② ・持続可能な社会を実現するための考えを発表しようとしている。 学習プリント② 発表

		思	○	・自分の行動とSDGsとを結びつけて考えることができる。 自己評価 他己評価
3	(4)「災害時の食事」について考える。 事例3 災害時の食の課題を取り上げ、災害への備え、献立作成と調理の工夫について考える。 ①日本は世界と比較しても災害が多い国であることについて知り、資料を見ながら、災害が起きた場合に想定されることを考える。 ②食は災害中にあっても欠かすことのできないもので、体調面だけでなくさまざまな影響を与えることを理解する。 ③災害に備えた備蓄の在り方（ローリングストック法）や家庭にある食材でも調理方法を工夫することで、栄養バランスのよい献立や、心を満たす料理ができることに気付く。 ④グループで災害時の場面を想定し、家庭にある食材（食材カードを選択させる）や限られた調理道具、方法で、バランスのよい献立を考え発表する。（栄養バランスがどうなっているか、既習事項を活用して確認。）	思 知 思 態	○ ○ ○ ○	・日本の背景とこれまでの災害を振り返って、食の重要性や食が人に与える影響について思考を深めることができる。 学習プリント③ ・非常時に配慮した食品の購入、調理、保存などの知識と技能を身に付ける。 学習プリント③ 定期考査 ・災害時を想定し、家庭にある食材や調理方法を工夫し、献立を考えることができる。 学習プリント④ ・与えられた課題について話し合い、発表する（他の発表を聴く）ことができる。 グループでの話し合い 発表 他己評価 自己評価

【参考】

知識構成型ジグソー法 **エキスパート活動** **ジグソー活動** **クロストーク活動**

知識構成型ジグソー法とは、他者に説明することで、知識を構築し、他者の説明を聞くことで自分の考えを深め、「問い」を解決する手だてを協働して考える、学習者を中心とした学習法である。図1に示すステップで進められる。一連の活動の中で多様な知識が統合され、生徒一人ひとりの思考力、判断力、表現力の高まりが期待できる。(山口県立岩国商業高等学校 教諭 岡崎隆子先生の研究 より)

図1

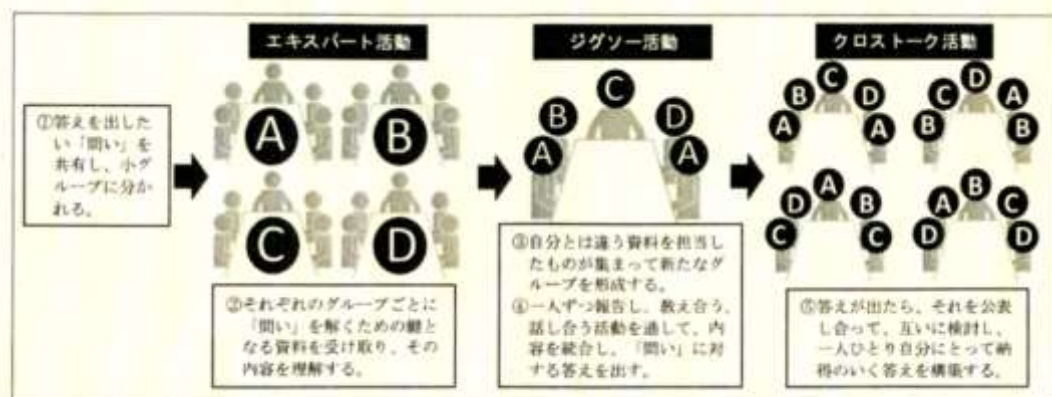


図1 知識構成型ジグソー法の進め方

4 観点別評価の進め方

(1) 知識・技能

1時間目と3時間目の知識・技能を評価するにあたり、学習プリント①・③では、日本の食生活に関わる現状と様々な課題について、「食料自給率」や「食品ロス」などのキーワードとなる課題について既習事項を踏まえ、調べ学習や自己の発表、または他者の発表から情報を収集し、それぞれの内容について学習プリントにまとめることができたかを、教師が点検することで行う。

食と人との関わりについて理解しているかについては、災害時の食事について、日本のこれまでの災害を元に、既習事項から食が人に与える影響や備蓄の工夫、献立の作成や調理の工夫などについて、理解ができていないかを学習プリント③・④で確認する。また、用語の定着を図るため、小テストや定期考査を実施し、「知識・技能」の評価として反映する。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	与えられたテーマについて、基本的な情報を収集し、現状と課題をまとめることができる。	与えられたテーマについて、基本的な情報に加えて、グラフや表などの関連する資料で、現状と課題を分かりやすくまとめることができる。	グループ内で、情報が共有できたか確認させる。記入が不足していた生徒については、再度教科書やiPadを利用し、個別に声がけを行い、学習プリントを補充しながら理解を深める。
学習プリント③ 定期考査	非常時を想定し、必要な食品の購入、調理、保存などの基本的な知識と技能について理解している。	非常時を想定し、食品の購入、調理、保存など、これまでの既習内容を踏まえた知識と、技能が身についている。	問いについて説明を加え、非常時に使えなくなるライフラインから、生活の中で不便になることや、必要になるものは何か考えさせる。非常時を想定しにくい場合は、日常生活の中でなくなつては困るものから考えさせる。

（２）思考・判断・表現

思考・判断・表現としては、既習事項を踏まえながら、主体的に食生活を営むことができるよう、健康及び環境に配慮した、自己と家族の食事について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力が身に付いたかを評価する。

１時間目の調べ学習を経て、２時間目と３時間目での他者の発表から学んだことや得た情報を踏まえ、課題や問題に対して「自分ごと」として捉え、実践できることを考え、表現することができているかを、学習プリント②で確認する。また、学習プリント③④の献立作成では、献立作成の既習事項を振り返り、災害時であっても家庭にある食材でバランスが良く、災害時に求められる献立を考えることができているか評価する。

	「おおむね満足できる」状況（Ｂ） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（Ａ）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（Ｃ）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント②	日本が抱える課題や問題について理解し、持続可能な社会を実現するための方策を考えることができる。	日本が抱える課題や問題について理解し、持続可能な社会を実現するための具体的な方策を考えることができるとともに、他者の発表について考えを深め、自分ごととして捉えている。	教科書から読み取れる、食に関する日本の課題や、問題点を抜き出してみるよう助言する。分かりにくい語句や説明に対して、理解しやすいよう説明を加えて、生徒の考えを引き出す。 他者の発表を聞いての感想を記入させる。
学習プリント③	災害時でも、食事が大切であることに意識を向けて、献立を考えている。	災害時でも食事が大切であることや、状況を踏まえた献立を考えている。	教科書やこれまでの既習事項を振り返らせ、人にとって食はどのような役割を果たしているか、考えさせる。友人の考えなども、参考にするように助言する。
学習プリント④	災害時を想定し、家庭にある食材で、基本的な献立を考えることができる。	災害時を想定して、ライフラインの寸断等を考えた調理方法の工夫と、家庭にある食材で、バランスの良い献立を考えることができる。	日常食の基本的な一汁三菜を教科書で確認させ、食事の主食と主菜を考えさせる。食材から、どのような調理ができるか、iPadで調べてみるよう促す。

（３）主体的に学習に取り組む態度

全時間を通して、グループでの調べ学習への取組や発表の仕方の観察、自己評価、他己評価の記録により評価する。学習プリントには、単元を貫く問いを含め、思考・判断・表現と一体的に評価する。自己評価に対しては、既習内容を振り返り、課題意識をもち、それを改善するために、どのようなことをしているのか、具体的な行動（実践使用とする態度）を示すことや、持続可能な社会の構築という視点においても今後の行動を具体的に示しているかを読み取り判断する。

食生活を豊かなものにするために、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫、創造し、実践しようとする態度を評価する。

	「おおむね満足できる」状況（Ｂ） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（Ａ）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（Ｃ）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	与えられたテーマに沿って現状を踏まえ、課題の調べ学習に取り組んでいる。	与えられたテーマに沿って現状を踏まえ、図や表なども参考にしながら、課題の調べ学習に意欲的に取り組んでいる。	記入が滞っている生徒には、教科書のテーマ部分から書き写すことを助言する。発表を行う必要もあることから、空欄にせず、グループ内で記入内容を共有するよう促す。
学習プリント②	与えられたテーマに沿って現状を踏まえ、課題の調べ学習に取り組んでいる。	与えられたテーマに沿って現状を踏まえ、図や表なども参考にしながら、課題の調べ学習に意欲的に取り組んでいる。	記入が滞っている生徒には、教科書のテーマ部分から書き写すことを助言する。発表を行う必要もあることから、空欄にせず、グループ内で記入内容を共有するよう促す。
話し合い・発表	意見や考えを述べている。学習プリントにまとめた内容について発表することができる。	主体的に話し合いに臨み、学習プリントにまとめた内容について、他者に分かりやすく伝えようと工夫している。	自分の役割を再度確認させ、できる限りの参加を促す。発表が苦手な生徒には、学習プリントに沿って読み上げることを助言する。
自己評価・他己評価	他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど、粘り強く取り組もうとしている。	他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど、粘り強く取り組んでいる。	活動に協働的に取り組めるよう支援する。また、粘り強く取り組めるよう、状況に応じて声がけをしていく。

ワークシートの具体例

別紙の通り

これからの食生活 ～持続可能な食生活を目指して～

自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考えていこう。

◆◆◆ 今日のキーワード ◆◆◆

食料自給率 食品ロス 食品のトレーサビリティ 地産地消 フード・マイレージ
ライフサイクルアセスメント（LCA） カーボンフットプリント（CFP） 食育基本法

それぞれ与えられたキーワードに沿ってグループで調べよう！

★内 容

◇資料を参照しながら、不足する情報について調べ、日本の食生活に関する課題と問題点をまとめよう。

◇日本の食に関わる現状を捉えよう。

◇課題や問題点を挙げ、私たちにできることをグループで話し合おう。

テーマ A **食料自給率** ～①食料生産と食糧問題～

テーマ B **食品のトレーサビリティ** ～②食の安全の確保～

テーマ C **食品ロス** ～③食をめぐる問題とその対策～

テーマ D **食育** ～④持続可能な食生活を営む力～

テーマ E **フードマイレージ** ～⑤食と環境～（地産地消・LCA・CFP）

☆教科書や資料集、iPad を使ってワークシートに沿って調べて考えよう。

☆次回は全員が発表します。発表に必要な資料（図や表）があればスクリーンショットしておこう。

テーマ ()

(1)テーマ【 】とは *テーマについて説明しよう

情報元・資料となるもの

関連する語句

(2) テーマ【 】についての日本の課題や問題点、過去の事例等

何が問題、課題となっているのか、これまで問題になった内容などをまとめよう

(3) 課題を改善するために私たちにできることにはどのようなことが考えられるか

これからの食生活 ～持続可能な食生活を目指して～

自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考えていこう。

◆◆◆ 今日のキーワード ◆◆◆

食料自給率 食品ロス 食品のトレーサビリティ 地産地消 フードマイレージ
ライフサイクルアセスメント（LCA） カーボンフットプリント（CFP） 食育基本法

前時に調べたテーマについて発表しよう

★進め方

◇前時のワークシートに沿って分かりやすく説明しよう。説明時間は一人 5 分程度です。

◇調べた際にスクリーンショットしたグラフや表などの資料を活用しよう。

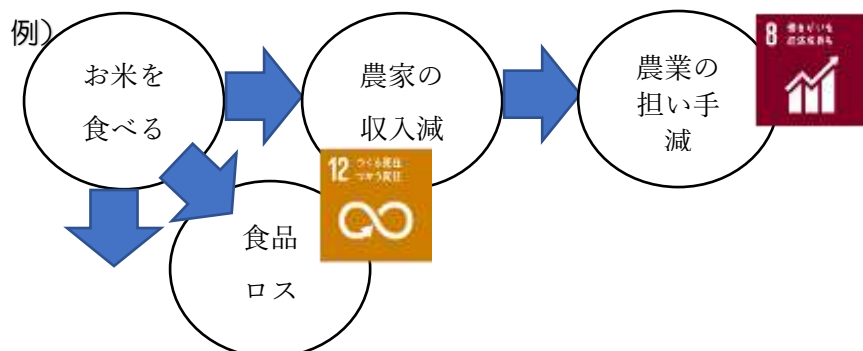
◇発表終了後、発表を聞いていたグループ内のメンバーに感想や意見を聞こう。

（１）日本が抱える様々な課題や問題について発表を聞き、考えたこと、感じたこと。

（２）特に印象に残った発表について具体的に記入しよう

(3) これまで学習した内容を踏まえて、SDGsとあなたの身近な行動を結びつけて考えよう。

身近な行動 が思い浮かばない人は例に続けて社会とのつながりを考えてみよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



自己評価 〔発表や聞く態度、学習への取り組みはどうだったか振り返ろう〕

④生涯の健康を見通した食事計画

◆食へのさまざまな備えと対策

食品ロスが問題となっている反面、日常の食事が困難になると考えられる場面もある。

どのような場合があるだろうか？

◆災害と食事

- ・今後（① 30年）以内に約（②70～80）%の確率で起こるとされている大地震
- ・予想されている地震規模は（③M8～M9）
- ・最大クラスの地震が発生した場合に想定される死者数は最大で約（④ 32 ）万人
- ・揺れによる家屋の被害とともに（⑤ 津波 ）による被害が大きいと想定される

災害が起きても、食事は大事！！



★災害時の食事について考えよう。

1 地震などの災害が起きたとき、私たちの食料はどうなる？

- ・道路が寸断されて物流がストップする など

2 災害時に使用できなくなるライフラインは？

- ・水道やガス、電気などが使えなくなる など

○災害に備える新しい食の対策

非常食 いざという時のために（⑥使わずに）置いておく食品 賞味期限（⑦3～5）年と長期間

災害食 災害時にも活用する（⑧ 普段食べている）食品

→ 賞味期限（⑨ 常温）で（⑩ 半年）以上なら OK

→（⑪ 野菜）は（⑫常温）で日持ちが良ければ可

【⑬ ローリングストック 】法：（⑭ 備蓄する ）→（⑮食べる ）→（⑯ 買い足す）

農林水産省は各家庭に最低（⑰ 3日分）、できれば（⑱1週間）分の水と食料を備えるよう提言

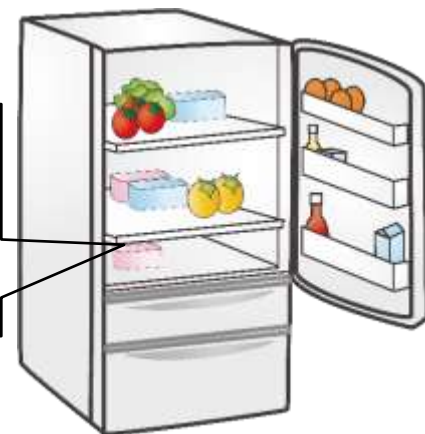
★ ライフラインが使えなくなった場合の調理の工夫をあげよう。どのような調理方法があるだろうか。

iPad を使って調べてみよう。

★ 家庭にある食材でバランスのよい献立を作成してみよう

① 家庭にある材料（想定）

卵（5個）、バター、マヨネーズ、ケチャップ、ソース、牛乳（800cc）
 チューブにんにく、しょうが、じゃがいも（3個）、タマネギ（1個）、焼きのり
 にんじん（2本）、レタス（1/2個）、バニラカップアイス（2個）、なめたけ
 食パン（3枚）、米、ヨーグルト（300g）、バナナ（2本）、ベーコン（3枚）



② 食材カードから5枚選択する



選択した食材

時間	献立名	材 料	調理法	備 考
朝 食	食パン（マーガリン） 目玉焼きとベーコン ヨーグルト バナナ	食パン（マーガリン） 卵 ベーコン レタス 油 ヨーグルト（砂糖） バナナ	トースターで焼く フライパンに油を入れて 焼く	レタスは添えるだけ
昼 食				
夕 食				
間 食				

◆やってみよう◆ ①と②の食材を使って1人分の昼食と夕食の献立を作成しよう。（余裕があれば間食も）
 どのような思いを込めて作成した献立か、グループでの考えを記入しよう。

◇やってみよう◇ I・IIいずれかの方法で、考えた献立のバランスを確認しよう

◆方法Ⅰ 食事バランスガイドに当てはめて食事のバランスを確認しよう

	主 食	主 菜	副 菜	その他	
一日の 目安量	ご飯・パン・麺類	肉・魚・卵・大豆料理	野菜・きのこ・いも 海藻料理	牛 乳 乳製品	果 物
	 3杯	 3皿	 5皿	 1つ	 2つ
朝食	食パン	目玉焼き・ベーコン	レタス	ヨーグルト	バナナ
昼食					
夕食					
間食					
品数の 合計					

★方法Ⅱ 食品群別摂取量の目安（簡易版） 使用した食品群に食材名を記入しよう。

食 品 群	1 群		2 群		3 群			4 群		
(おもな食品)	乳 乳製品	卵	肉・魚	豆 豆製品	野菜	いも	果物	穀類	油脂	砂糖
朝	ヨーグルト 90g	卵 50g	ベーコン 10g		レタス 10g		バナナ 100g	食パン 60g	マーガリン 4g	砂糖 3g
昼										
夜										
合 計										
摂取量の目安 (15~17)	男 320	50	200	80	350	100	200	430	30	10
	女 320	50	120	80	350	100	200	320	20	10

★各グループの工夫について（献立の工夫，調理方法など）

発表から活用したいと思ったこと，工夫していることをメモしよう。



★本時の振り返り

○授業を通じて考えたことや感じたことを記入しよう。

家庭科「家庭総合」事例5

キーワード 持続可能な衣生活を目指して ～私たちの衣生活と世界のつながりを考えよう～

単元名

衣生活を作る
これからの衣生活

〔指導項目〕

B 衣食住の生活の科学と文化
(2) 衣生活の科学と文化

1 単元の目標

- (1) 衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めること。
ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができること。
被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けること。
- (2) 主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けること。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めている。 ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解しているとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。	主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（24時間）

衣生活をつくる

1 被服の役割を考える	3時間
2 被服を入手する	5時間
3 被服を管理する	3時間
4 被服を作る	10時間
5 衣生活の文化と知恵	1時間
6 これからの衣生活	2時間

事例

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
	6 これからの衣生活			
	【ねらい】 ①次世代に引き継ぐことができる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ②全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。			
1	①被服の生産と消費について理解する。 (1) 自らの被服の購入の際の優先順位（ダイヤモンドランキング）を考え、自己の消費行動について確認する。 (2) ダイヤモンドランキングを活用し、衣生活と関わる上で大切にしたいことを書き出し、ランキングにする。また、その理由も加えて記入する。学習プリント①－2でランキング枠の上段に記入する。 (3) 被服の処分経路について確認し、使用と廃棄、有効活用について学ぶ。 (4) エシカルファッションとこれからの被服の在り方について学ぶ。	思 知	○ ○	・ダイヤモンドランキングを通して、衣生活と関わる中で大切にしたいことを自らの考えとして表現できる。 ダイヤモンドランキング 学習プリント① ・エシカルファッションがどのようなものか理解している。 学習プリント① 定期考査
2	②衣生活と世界のつながりについて考える。 (1) 私たちが着ている被服がどこで作られているのか、関連動画を視聴し、何を伝えようとしているか考え、資源と環境、被服が世界に与える影響や、流行と世界の現状について知る。バングラデシュで崩壊した縫製工場、被服材料の生産に至る環境を理解する。 (2) 全ての人が楽しめる衣生活を通してユニバーサルデザインの考え方を知る。 (3) 学んだことを踏まえて、ダイヤモンドランキングに再度取り組み（ランキング枠下段に記入）、前時に記入したランキングと変化した部分があれば、その理由をまとめる。	思 知 態	○ ○ ○	・動画の視聴を通して、衣生活の背景について理解し、何を伝えようとしているか考察できる。 学習プリント② ・被服が世界に与える影響について理解している。 ・ユニバーサルデザインがなぜ必要なのか理解している。 学習プリント② 定期考査 ・ダイヤモンドランキングを通して、学習前後の自分の考えを振り返り、今後の生活にどのように生かしていくか考える。 学習プリント②

4 観点別評価の進め方

(1) 知識・技能

衣生活を取り巻く課題や日本と世界の関わり、被服と人との関わりについて理解を深めるために、様々な角度から資料や動画を用いながら学習プリントにまとめる。

学習の前後で自分の考えをダイヤモンドランキングに記入させ、これまでの既習事項を踏まえたことで、理解の深まりと持続可能な衣生活に向けて、自分にできることの視野を広げることができたか、学習プリントで確認する。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	被服の処分経路から、これからの衣生活で取り組むべき課題について理解している。	これからの衣生活を考える上で、必要な課題に対する具体的な取り組みについて理解できている。	分かりにくい言葉や、理解が出来なかった部分について確認し、教科書や学習プリントの資料についての説明を加えることで理解を深めさせる。
学習プリント②	衣生活の背景を踏まえ、資源や環境、全ての人が楽しめる衣生活(ユニバーサルデザイン)の在り方を理解する。	衣生活の背景を踏まえ、資源や環境、全ての人が楽しめる衣生活(ユニバーサルデザイン)の、具体的な在り方を理解している。	衣生活の課題に関連する言葉や、ユニバーサルデザインについて、語句の意味が理解できていない場合には、教科書で再度確認させ、具体的な事例を挙げて説明し、理解を促す。
定期考査	被服の処分経路について、使用と廃棄、有効活用について理解している。	被服の処分経路について理解し、使用と廃棄、有効活用について具体的な例を挙げることができる。	被服の処分経路について、教科書や学習プリントで学んだことを見直し、被服の有効な活用について理解を促す。

(2) 思考・判断・表現

自己の衣生活を振り返り、衣生活と関わる上で大切にしたいことや、主体的に衣生活を営むことができるよう、着装について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察することができているか、ダイヤモンドランキングの記入の様子や動画の視聴、授業終了後の振り返りから確認する。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント① ダイヤモンドラ ンキング	衣生活と関わる上で大切にしたいことを考え、書き出すことができる。	衣生活と関わる上で大切なことを、さまざまな面から捉えて具体的に考えることができる。	場面を具体的な例として挙げ、考えを促す。
学習プリント②	動画の視聴から、感じたことや考えたことを表現できる。	動画の視聴から、世界の衣生活に関連する背景や資源、環境と合わせて考えることができる。	動画の視聴からどのような感想を持ったのか、場面を区切りながら考えさせ、言葉を引き出せるよう支援する。

（３）主体的に学習に取り組む態度

本事例では、学習前後に行ったダイヤモンドランキングの振り返りを通して、自己の衣生活に対する考え方の変化に気付かせ、今後の生活に生かしていこうとしているかを、ワークシートの記述から見取ることとで評価をする。持続可能な衣生活に向けた行動変容につながることに期待をしたい。

	「おおむね満足できる」状況（Ｂ） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（Ａ）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（Ｃ）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント②	環境に配慮した、持続可能な衣生活について思考が深まり、今後の生活に生かそうとした自分の意見を、プリントに記入できる。	環境に配慮した、持続可能な衣生活について思考を深め、自身の考えを取り入れながら、今後の生活に向けた具体的な行動を、プリントに記入できる。	考えが深められない生徒については、いくつかの質問を交えながら、思考を促すとともに、他者の意見やまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。

ワークシートの具体例

別紙の通り

「衣生活とかわる上で大切にしたいこと」 ダイヤモンドランキング
プリントに記入した「衣生活とかわる上で大切にしたいこと」を、自分なりにランク付けして記入してみよう。

(上段) 学習前
(下段) 学習後

1
①

2
②

2
②

3
③

3
③

3
③

4
④

4
④

5
⑤



1～5でランキングした理由	①～⑤でランキング（変更）した理由 / 衣生活と関わる上で大切にしたいこと
---------------	---------------------------------------

これからの衣生活 ～持続可能な衣生活を目指して～①

次世代に引き継ぐことができる衣生活の在り方を考えるために、資源消費の視点で自分の衣生活を見直そう。また、全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むための、ユニバーサルデザインの被服について理解を深めよう。

◆◆◆ 今日のキーワード ◆◆◆

エシカルファッション ファストファッション 衣生活の3R



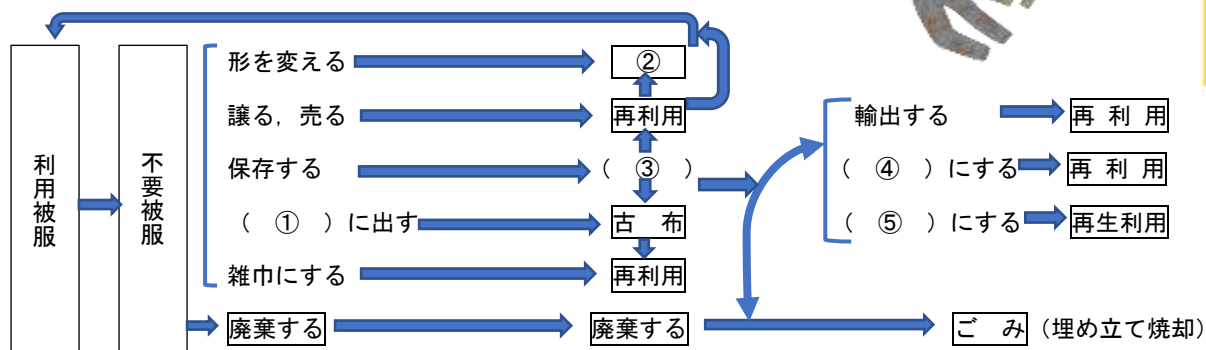
I 被服の生産と資源

(1) 衣生活とかかわる上で大切にしたいことを書き出そう。

(例) ・長く着られそうか ・値段の安さ ・合わせやすさ など

(2) (1)の内容をダイヤモンド型のランキングシートを用いて順位づけしよう。(別紙)

(3) 被服の処分経路について空欄に当てはまる言葉を答えよう。



①	②	③	④	⑤

(4) 衣生活における,3R の具体的な例をあげてみよう。

Reduce リデュース	
Reuse リユース	
Recycle リサイクル	

◇◆被服とエシカルファッション◇◆

エシカル (ethical)とは「① 道徳・倫理上の 」という意味。

エシカルファッションとは、(② 環 境)に配慮した素材や(③ 生産方法)を用いて作られた被服や (④ 労働者)が安全で健康を損なわず、 (⑤ 適正な賃金)で働いて作られた被服。



→ ＊ファストファッション

最新の流行を取り入れ、企画から販売までのサイクルを短縮し、展開するファッションビジネス

○あなたが知っている、もしくはすでに実践しているエシカルファッションがあれば記入しよう。

人・環境・社会にやさしいエシカルファッション(例)

人にやさしい	フェアトレードで生産者の労働環境を守っている
環境にやさしい	原材料・生産体制・輸送などにおいて環境負荷を最小限に抑えている
	不要になった製品を回収しリサイクルも行う
	動物を傷つける原材料を使用しない
社会にやさしい	消費者が住む地域の地場産業や伝統技術、雇用を守っている

環境に配慮した被服の使用 (例)

ウォームビズの工夫を考え記入しよう

クールビズ (冷房時室温28℃で快適な服装)	ウォームビズ (暖房時室温20℃で快適な服装)
ネクタイをはずす, 吸収性のよいポロシャツなどを着用する	()



本時の振り返り (今日の授業から学べたこと, 考えたことを記入しよう)

これからの衣生活 ～持続可能な衣生活を目指して～②

次世代に引き継ぐことができる衣生活の在り方を考えるために、資源消費の視点で自分の衣生活を見直そう。また、全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むための、ユニバーサルデザインの被服について理解を深めよう。

◆◆◆ 今日のキーワード ◆◆◆

アパレル廃棄 ユニバーサルデザイン

Ⅰ 私たちの衣生活と世界のつながりを考えよう

① 動画を視聴して感じたこと

命のリスクと引き換えに、自分たちは買うことも、着ることもないであろう服を、製造している人々がいます。

②日本の衣類の輸入浸透率のグラフからどんなことがわかるだろうか

【衣生活の資源・環境問題】

・アパレル廃棄（衣服ロス）

・綿栽培と農薬

・皮革製品製造工場の薬品



2 全ての人が楽しめる衣生活

ユニバーサルデザインとは・・・特定の人だけではなく誰もが使いやすいデザイン。年齢や性別、障がいの有無に関係なく、便利に使えるように、製品や建物、空間をデザインしていこうという考え方。



◇あなたの知っている「ユニバーサルデザイン」にはどのようなものがあるだろう？

A large, empty dashed-line box for writing answers.



◇ 次の①～③の目的を果たすユニバーサルデザインの具体的な例をあげてみよう。

① 着脱のしやすさ

② 着心地

③ 機能性



◆ダイヤモンドランキングを見直そう◆

「衣生活とかかわる上で大切にしたいこと」のランキングを見直そう。考えが変わったところがあればその理由も述べよう。

家庭科 「家庭総合」事例6

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

持続可能な生活を営む

1 持続可能な社会を目指して

2 一人一人の力で社会を動かす

〔指導項目〕

内容C 持続可能な消費生活・環境

(3) 持続可能なライフスタイルと環境

1 単元の目標

- (1) 生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めること。
- (2) 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫すること。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする事。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めている。	持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫している。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（3時間）

1. 持続可能な社会を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
2. 一人一人の力で社会を動かす・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

時 間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
1	【ねらい】可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解しよう。			
	1. 持続可能な社会を目指して 〇SDGsに関する動画視聴（2～3分程度） よりよい地球環境に向けて～SDGsの復習をする。			

				【ねらい】持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫しよう。そして、一人の主体者として、社会全体をより良い方向に動かしていこう。	
3	2. 一人一人の力で社会を動かす 3 R (リデュース, リユース, リサイクル) + 2 R (リフューズ, リペア) について学び, 今日からできる取組について考える。 エシカル消費の実践 学校でできる持続可能な活動について考える。 前時で考えた標語もとに, 学校で実践できる持続可能な生活行動をグループごとに考える。K J法を用いた話し合いを行い, 各自が意見を出しやすいように配慮をする。 班ごとに別々な場面の生活行動を考えるようにする。 例) 学校行事 (文化祭, 体育祭で実践できること) 売店改造計画! 冷暖房費を減らすために など ★ここでの話し合いを学校家庭クラブ活動に生かし, 学校で持続可能な消費活動の実践について, 周知していくようにする。	知	○	・持続可能な社会へ参画することの意義について, 5 Rについて理解している。 定期考査 , 学習プリント③	
		思	○	・自分たちの消費行動が地域や学校の環境にどのような影響を与えるのか, 考察する。 学習プリント③ , 発表 定期考査	
		態	○	・自分の消費行動を見直し, エシカル消費が実践できるようになる。 学習プリント③ , 発表 , ポートフォリオ	

4 観点別評価の進め方

本事例では、教科書を用いた基礎的な理解をはじめ、ゲストスピーカーの講話やグループでの話し合い活動を通して、自己の消費行動を見直し、エシカル消費を実践できるようになることを目指している。また、自己の行動変容を促すだけでなく、地域社会や学校生活においてもエシカル消費の視点で生活を見直し、実践できるようになることを目指す。本授業後は、この授業を生かし、学校家庭クラブ活動として、エシカル消費の実践を校内に呼びかけるリーダーとしての活躍にも期待をしたい。

(1) 知識・技能

教師が座学による授業を行い、ワークシートに記入させる場面と、定期考査において、「知識・技能」の評価を行う。ワークシートの評価は、教師が正しく記入されているかを確認することで行う。また、定期考査においては、基礎的な知識の習得が確実に行われているかを解答の状況から確認する。

	「おおむね満足できる」状況(B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況(A)と 判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	フェアトレードで販売されている商品や、環境ラベルについておおむね理解している。	フェアトレードで販売されている商品や、環境ラベルについて十分理解している。	教科書の内容を確認させ、フェアトレードや環境ラベルについて理解できるように支援する。プリントの記入にあたっては、指で指し示すなどして支援する。
学習プリント③	3R+2Rについて概ね理解している。また、今日からできる取組について考えることができる。	3R+2Rについて十分に理解している。また、今日からできる取組についてより具体的に考えることができる。	教科書の内容を確認させ、3R+2Rについて理解できるように支援する。また、今日からできる取組については、教科書の記載事項や、友人の考えを参考にするなど、考えるきっかけを与えて支援する。

(2) 思考・判断・表現

本事例では、様々な例題や活動を通して、持続可能な消費行動やエシカル消費について、自ら具体的に考え、表現する場面が多く、またその考えや表現を評価していくために、思考が深まらない生徒には質問を行い、具体的に考えられるよう取組段階での支援が必要である。また発表活動においては、グループごとに役割分担をして発表に臨むよう促し、発表活動が苦手な生徒に対しての支援も行っていくようにする。

また、本時では、学校で実践できる持続可能な消費行動を、グループごとに考える場面を設けているが、本時終了後には、この活動を学校家庭クラブ活動の実践につなげられるようにし、学校全体の取組となるよう活動を広めていくきっかけとしたい。

	「おおむね満足できる」状況（B）	「十分満足できる」状況（A）と判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立て
学習プリント①	自分の消費行動が環境に及ぼす影響について考えることができる。 地球環境保持のために、自分にできることを考えることができる。	自分の消費行動が環境に及ぼす影響について深く考え、具体的に表現することができる。 地球環境保持のために、自分にできることを考え、具体的に表現することができる。	他者の意見やまとめから、参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
学習プリント②	ゲストスピーカーの講話から、課題を探り、グループで解決すべき自分たちの消費行動を考えることができる。	ゲストスピーカーの講話から、課題を十分に探り、グループで解決すべき自分たちの消費行動をより具体的に考えることができる。	他者の意見やまとめから、参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
標語	分かりやすい標語を考えることができる。	分かりやすい標語になるように工夫をして考えることができる。	他者の標語を参考に、自分の思いを表現するように促す。
学習プリント③	学校でできる持続可能な活動について考え、発表することができる。	学校でできる持続可能な活動について深く考え、分かりやすいように工夫して発表することができる。	他者の意見を参考に、自分の考えを発表するように促す。発表に向けて参加を促す。
発表	自分に与えられた役割を果たし、発表することができる。	自分に与えられた役割を十分に果たし、分かりやすい発表をすることができる。	自分の役割を再度確認させ、できる限りの参加を促す。
定期考査・パフォーマンス課題	課題解決に向けて、これまでの学習内容をもとに考えられており、分かりやすい表記ができています。	課題解決に向けて、これまでの学習内容を総合して考えられており、分かりやすく具体的な表記ができています。	考査返却後に、課題解決に向けて、これまでの学習内容をもとに考えられるように支援を行い、再度提出を促す。

（３）主体的に学習に取り組む態度

本時では、ゲストスピーカーの講話、グループでの話し合いや発表、また、個人で学習プリントに考えをまとめるといった学習活動を取り入れている。評価については、話し合いや課題に主体的に取り組んでいるか、また発表に意欲的に取り組み、内容が充実しているかを教師による観察やワークシート、生徒自身の自己評価によって行う。

	「おおむね満足できる」状況（Ｂ） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（Ａ）と 判断した具体例	「努力を要する」状況（Ｃ）と判 断した生徒への指導の手立て
学習プリント②	講話を聞き、自己の消費行動に課題を見出し、行動を変えるよう努力していこうとしている。	講話を聞き、自己の消費行動に課題を見出し、積極的に行動を変えるよう努力していこうとしている。	自己の消費行動について質問しながら、課題に気付くよう支援する。
行動観察	講話やグループ活動におおむね協働的に取り組み、他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど粘り強く取り組もうとしている。	講話やグループ活動に協働的に取り組み、他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど粘り強く取り組んでいる。	講話やグループ活動に協働的に取り組めるよう支援する。また、粘り強く取り組めるよう、状況に応じて声がけをしていく。
ポートフォリオ	＜自己評価＞講話やグループ活動におおむね協働的に取り組むことができる。 他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど粘り強く取り組もうとしている。	＜自己評価＞講話やグループ活動に積極的かつ協働的に取り組むことができる。 他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど粘り強く取り組んでいる。	講話やグループ活動に協働的に取り組めるよう支援する。また、粘り強く取り組めるよう、状況に応じて声がけをしていく。
学習プリント③	自分の消費行動を見直し、エシカル消費が実践できるように粘り強く取り組もうとしている。	自分の消費行動を振り返って深く見直し、エシカル消費が実践できるように粘り強く取り組んでいる。	自己の消費行動について質問しながら、課題に気付くよう支援する。
ポートフォリオ	他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど粘り強く取り組もうとしている。	他者の意見を自己の生活に取り入れ、前向きに実践しようとするなど、継続して粘り強く取り組んでいる。	自己の消費行動について質問しながら、課題に気付くよう支援する。
発表	自分に与えられた役割を果たし、発表することができる。	自分に与えられた役割を十分に果たし、分かりやすい発表をすることができる。	自分の役割を再度確認させ、できる限りの参加を促す。

5 観点別評価の総括

評価は単元ごとに行う。評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて、合計や平均値に換算することで総括していく。A=3, B=2, C=1とし、各観点の評価を数値化すると、「知識・技能」の平均点は2.5, 「思考・判断・表現」の平均値は2.2, 「主体的に取り組む態度」の平均値は2.3となる。Bと判断する範囲を「 $1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5$ 」と設定すると、「知識・技能」ではA, 「思考・判断・表現」ではB, 「主体的に学習に取り組む態度」ではBの評価に総括できる。

	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ワークシート	定期考査	ワークシート	定期考査	ワークシート ポートフォリオ	観察 発表
1時間目	A(3)	B(2)	B(2)	B(2)		
2時間目			A(3)		B(2)	A(3)
3時間目	A(3)	B(2)	B(2)	B(2)	B(2)	B(2)
総括	A(2.5)		B(2.2)		B(2.3)	

6 ワークシートの具体例

別紙のとおり

持続可能な生活を営む

1. 持続可能な社会を目指して

ねらい 持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境の関わりについて理解しよう。

画像・イラスト

書籍紹介

SDGsについての学習に効果的な書籍を紹介し、また書籍に関する動画を授業の中で視聴する。

世界を小規模に置き換え、自分たちの生活について振り返らせるとともに、世界各国(特に開発途上国)の人々の生活について想像し、考えを深めさせる。

世界には63億人の人がいますが
もしもそれを100人の村に縮めるとどうなるのでしょうか。

復習！！SDGs！！

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。

SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標。





フェアトレード

知識・技術

開発途上国の原料や製品を、適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や、労働者の生活改善と、自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。

どんな产品があるの？

フェアトレード認証製品市場で大きな割合を占めるのはコーヒーですが、チョコレート原料となるカカオやコットン製品、バナナやスパイスなども増えています。他にも砂糖、ジャム、はちみつ、ごま、ワイン、大豆・豆類、切り花、ボール類などがあります。

• コーヒー	• 紅茶	• カカオ	• スパイス・ハーブ	• 果物	• 加工果物
• ワイン	• オイルシード 油脂果物	• 食品その他	• 切花	• コットン製品	• 食品以外その他

環境ラベルとは 調べてみよう♪

知識・技術



環境ラベル等データベース

<https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/index.html>

可能なライフスタイルの実現に向けて、自分にできることをまとめましょう。

◇フェアトレードや環境ラベルについて知っていましたか？

YES

NO

◇フェアトレードや環境ラベルについてのあなたの考えを書きましょう。

思考・判断・表現

◇今日の学習を通して、あなた自身が地球環境保護のためにできることを考えましょう。

思考・判断・表現

◇フェアトレードや環境ラベルについて、社会に広めていくための方法を考えましょう。

思考・判断・表現

◇今日の学習を踏まえて、学校で私たちができる地球環境保護のための取り組みのアイデアを出してみましょう。

自己評価をしましょう。

	A	B	C	自己評価
知識・技能	フェアトレードで販売されている商品や、環境ラベルについて、十分理解できた。	フェアトレードで販売されている商品や、環境ラベルについて、大体理解できた。	フェアトレードで販売されている商品や、環境ラベルについて、よく理解できなかった。	
思考・判断・表現	自分の消費行動が、環境に及ぼす影響について深く考え、具体的にプリントに記入できた。 地球環境保持のために、自分にできることを考え、具体的にプリントに記入できた。	自分の消費行動が、環境に及ぼす影響について考え、プリントに記入することができた。 地球環境保持のために、自分にできることを考え、プリントに記入することができた。	自分の消費行動が、環境に及ぼす影響について、プリントに記入することができなかった。 地球環境保持のために、自分にできることを、プリントに記入することができなかった。	

番号

名前

持続可能な生活を営む

1. 持続可能な社会を目指して

ねらい 持続可能なライフスタイルの実現に向けて, 身近な生活と環境の関わりについて理解しよう。

◎ゴミ問題の現状について学ぼう

ゲストスピーカー

メモ

ゲストスピーカー

メモ

◎ゲストスピーカーの話を聞き, 地域の課題, 学校の課題をまとめましょう。

思考・判断・表現

地域の課題

学校の課題

◎地域の課題, 学校の課題を踏まえ, 今日から私たちにできること, しなければならないことは何か, 考えて具体的に書きましょう。

思考・判断・表現

◎地球環境に配慮した行動を意識して行うための標語やキャッチフレーズを考えよう。

思考・判断・表現

標語・キャッチフレーズ

グループのメンバーの標語で良いと思ったものと, その理由を書きましょう。

<標語>

<良いと思った理由>

自己評価をしましょう。

	A	B	C	自己評価
思考・判断・表現	ゲストスピーカーの講話から, 具体的な課題を見付け, 消費行動の改善について具体的に考え, 学習プリントに記入することができた。	ゲストスピーカーの講話から, 課題を見付け, 消費行動の改善について考え, 学習プリントに記入することができた。	ゲストスピーカーの講話から, 課題を見付けることができず, また消費行動の改善について, 自分の考えを学習プリントに記入することができなかった。	
	分かりやすい標語になるように, 工夫をして考えることができた。	分かりやすい標語を考えることができた。	分かりやすい標語を考えることができなかった。	
主体的に学習に取り組む態度	講話を聞き, 自己の消費行動に課題を見付け, 積極的に行動を変えるよう努力していく意気込みを, 具体的に学習プリントに記入することができた。	講話を聞き, 自己の消費行動に課題を見付け, 行動を変えるよう努力していく意気込みを, 学習プリントに記入することができた。	講話を聞いたが, 自己の消費行動に課題を見付けられず, 行動を変えるよう努力していく意気込みを, 学習プリントに記入することができなかった。	
	講話やグループ活動に積極的かつ協働的に取り組み, 他者の意見を自己の生活に取り入れ, 実践しようとするなど粘り強く取り組むことができた。	講話やグループ活動におおむね協働的に取り組み, 他者の意見を自己の生活に取り入れ, 実践しようとするなどして取り組もうとした。	講話やグループ活動に協働的に取り組むことができず, 他者の意見を自己の生活に取り入れ, 実践しようとすることができなかった。	

番号

名前

持続可能な生活を営む

2. 一人一人の力で社会を動かす

ねらい 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫しよう。そして、一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこう。

知識・技術

資源利用を減らすための ^{アール}5つの『R』

『R』・・・

『R』・・・

『R』・・・

『R』・・・

『R』・・・

自分の消費行動を振り返り、今日からできる5つのRについて具体的に考えてみましょう。

思考・判断・表現

※教科書〇〇ページを参考にしてみてね。

前の時間のゲストスピーカーの講話を参考に、学校において私たちにできることを考えよう。

【 グループのテーマ 】

取り組みについて考え、まとめましょう。

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

① 付箋に一人一人ができることをとにかく考えて書く。

② グループで各自が書いた付箋を確認し、近い意見をまとめてグルーピングしていく。

③ グルーピングした意見をもとに、どんな取り組みができるかまとめてポスターにする。

役割分担

A 話し合いのリーダー 司会	B 各自の意見を書いた付箋をまとめたり、前時の標語などの資料整理
C ポスター製作係①	D ポスター製作係②

発表に向けて準備をしましょう。

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

役割分担

A 発表者①	B 発表者②	C 資料指示役	D PC 操作
話し合いの記録を残しておきましょう。		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

自己評価をしましょう。

	A	B	C	自己評価
知識・技能	5Rについて十分に理解することができた。	5Rについて大体理解することができた。	5Rについてあまり理解することができなかった。	
	今日からできる取組について具体的に深く考えることができ、学習プリントに記入することができた。	今日からできる取組について考えることができ、学習プリントに記入することができた。	今日からできる取組について考えることができず、学習プリントに記入することもできなかった。	
思考・判断・表現	学校でできる持続可能な活動について深く考え、具体的な意見を出し、また分かりやすいように工夫して資料をまとめることができた。	学校でできる持続可能な活動について考えることができ、資料をまとめることができた。	学校でできる持続可能な活動について考えることができず、また資料をまとめることができなかった。	
	自分に与えられた役割を十分に果たし、分かりやすい発表をすることができた。	自分に与えられた役割を果たし、発表することができた。	自分に与えられた役割を果たすことができず、発表にも積極的に参加できなかった。	
主体的に学習に取り組む態度	自分の消費行動を振り返って深く見直し、エシカル消費が実践できるように粘り強く取り組むことができた。	自分の消費行動を見直し、エシカル消費が実践できるように粘り強く取り組もうと努力できた。	自分の消費行動を見直すことができず、またエシカル消費が実践できるように取り組むことができなかった。	
	他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど粘り強く取り組むことができた。	他者の意見を自己の生活に取り入れ、実践しようとするなど、粘り強く取り組もうとすることができた。	他者の意見を自己の生活に取り入れることができず、実践しようとすることもできなかった。	
	積極的にグループ活動や発表に取り組み、グループのために活動することができた。	グループ活動や発表に意欲的に取り組み、自分に与えられた役割を果たすことができた。	グループ活動や発表に積極的に取り組むことができず、自分に与えられた役割を果たすことができなかった。	

番号

名前

学習の振り返りシート

『 持続可能な生活を営む 』

① 授業のねらい

持続なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解しよう。

持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫しよう。そして、一人の主体者として、社会全体をより良い方向に動かしていこう。

○持続可能な消費やライフスタイルについて、今の考えや自分が実践していることを書きましょう。

授業の開始前に記入するようにする

日付	主な学習内容	今日の振り返り (大切だと思ったことや理解したこと、感想などを書きましょう)
	1. 持続可能な社会を目指して ○フェアトレード、環境ラベルについて学ぶ。	毎時間まとめとして記入するようにする
	○ゴミ問題の現状について学ぶ ゲストスピーカーによる講話	
	2. 一人一人の力で社会を動かす ○3R+2Rについて学ぶ。 ○エシカル消費の実践について考える。	

◎今回の学習を通して、今後「持続可能な社会を目指して」あなたが「それぞれの場面」で「どのような行動をとっていこう」と考えるか、詳しく書いてみましょう。また、すでに実践していることがあれば書きましょう。

○普段の私生活の中で…

授業の最後の時間にまとめとして記入するようにする

○学校生活の中で…(個人&全体で)

授業の最後の時間にまとめとして記入するようにする

【家庭部会作成委員】

熊谷 直美 宮城県教育庁高校教育課指導主事

高田 亜希子 宮城県加美農業高等学校教諭

三部 佐貴子 宮城県伊具高等学校教諭